トイレ事例集

みんなでつくろう。
みんなの
“暮らしやすい!”を。

政府広報｜内閣官房　すべての女性が輝く社会づくり推進室

日々の「暮らしの質」の向上が
暮らしやすい社会をつくる

誰もが暮らしやすく、活躍できる社会を目指す上で、日々の「暮らしの質」の向上は欠かせません。政府は「暮らしの質」向上検討会を開催し、快適な暮らしへの転換の象徴としてトイレに着目して「ジャパン・トイレ・チャレンジ」を開始しました。また、チャレンジの一環として、快適なトイレ空間や国際貢献、災害対応の場などでのトイレ事例を広く収集する「日本トイレ大賞」も開催しました。毎日、何度も足を運び、一生のうち8～11か月間という長い時間を過ごすトイレ空間。その質が、私たちの人生そのもののクオリティに大きく関わるといっても過言ではありません。地方自治体、企業、学校、団体などでは、既にトイレに関する工夫を凝らした取組も多数、行われています。そうした様々な好事例を、多くの人に活用していただくため取りまとめたのが本冊子です。この事例集をきっかけに、トイレに関する活動への関心が更に高まることを願っています。

「暮らしの質」向上検討会ホームページはこちら
http://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kurashinoshitsu/#teigen

この事例集は、パンフレット〈みんなでつくろう。みんなの“暮らしやすい!”を。〉から、
「暮らしやすい空間づくり」の象徴として取りあげた、「トイレ」を特集したものです。

様々なトイレ空間

安心・安全で快適なトイレ空間をご紹介します。

商業施設……3P

交通機関……5P

学　校……9P

移動・仮設トイレ……13P

公衆トイレ等……15P

トイレに関する取組

トイレに関する工夫ある取組や活動をご紹介します。

途上国支援……17P

災害対応……19P

まちづくり・観光……21P

環境配慮……25P

清掃・維持管理等……28P

啓発・情報……31P

福　祉……33P

日本トイレ大賞 のマークがついている案件は、2015年に行われた「日本トイレ大賞」において大賞を受賞した案件です。日本トイレ大賞には378件の応募が寄せられ、外部有識者委員からなる選考審査会※の厳正な審査を経て28件が大賞に選ばれました。

※委員は、規定に従い、自らが直接利害を有する企業、団体等による取組事例については審査に不参加。

商業施設

渋谷ヒカリエ ShinQs（シンクス）

株式会社東急百貨店

集客につながる、心地良い「スイッチルーム」

・ターゲットに近い女性5名でプロジェクトを立ち上げ、トイレ専業メーカーなどの力を借りずに計画。
・売場デザインと連動を図り、買物を楽しむ利用客のワクワク・ドキドキ感をトイレという別空間で途切れさせないため売場環境の延長としてデザイン。トイレを「スイッチルーム」と名付け、気持ちの「ON⇔OFF」を切り替えることができる空間を表現。利用自体が来店の契機となり、滞在時間が伸び、利用満足度を高めることで宣伝効果に。
・音楽療法を取り入れた3DオリジナルBGMや各階ごとのアロマの香りの提供など、視覚・聴覚・嗅覚を刺激し、ハード面の心地良さに加えソフト面の心地良さも提供。

●施設所在地：東京都渋谷区渋谷（渋谷駅直結）
●設計：（株）丹青社

日本トイレ大賞

ソラリアプラザ

西日本鉄道株式会社

混雑時も、ぶつかりにくいワンウェイの動線

・施設の大型リニューアルを行うに当たり、トイレの重要性に関する女性社員アンケートの結果を基に、暗く狭かったトイレを拡張し、明るく清潔感のある空間へ改修。
・動線はワンウェイとし、出入り時に利用者同士がぶつかることのないように改善。
・トイレブースを一目でどのブースが空いているのか分かるように配置。パウダーコーナーは、立ちと座りを設け、化粧直しがしやすいよう照明の配置に配慮。
・トイレを、買物という多くの情報を整理する場として捉え、アロマやBGMも導入するなど、安らげる心地良い空間に。

●施設所在地：福岡県福岡市中央区天神（西鉄福岡〈天神〉駅直結）　●設計：（株）エイムクリエイツ

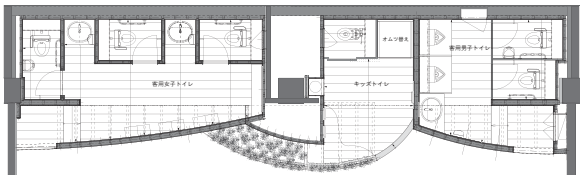
ラスカ平塚店

湘南ステーションビル株式会社

アートギャラリーのあるトイレ

・約20年前より、社内の女性活躍のために女性によるトイレ改善プロジェクトを立ち上げ、取組を継続。
・1991年からのトイレメンテナンスの積み重ねを活かし、近年の改装時には、設計者・管理者・清掃者が一体となり継続的に問題点やニーズを把握。プラン段階からの清掃及びビル管理スタッフの積極的関与により、トイレに対する愛着感が醸成され、適切なメンテナンスが可能に。
・地元の東海大学教養学部芸術学科の学生から協力を得て、ファサード・共有スペース・個室スペースに学生たちの絵や写真、平面作品を展示し、半期ごとに入替えを行う「LUSCA&TOKAI ART GALLERY」を設置。作品発表の場を提供することで、ラスカに対する帰属意識を高める効果や利用客にとっての リフレッシュ効果あり。

●施設所在地：神奈川県平塚市宝町　●設計：（有）設計事務所ゴンドラ
●運営：東海大学教養学部芸術学科デザイン学課程



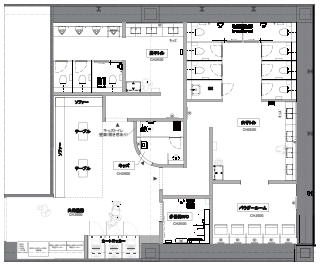
ゆめタウン廿日市（はつかいち）

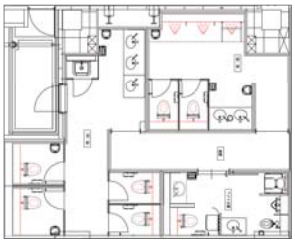
株式会社イズミ

コンセプトは「心に作用するトイレ」

・計画初期から女性の意見を取り入れ、清潔・機能・利便性という基本性能だけでなく、女性の「可愛い」「気分が上がる」といった心に作用する領域までも考慮。
・10年先も通用するスタンダードデザインの進化型を目指し、シンプルにすることを基本とし、カラーリング、マテリアル、間接照明、サインをデザイン。トイレの用事だけでなく化粧直し、休憩、待ち合わせ、リフレッシュ等多様なニーズに応えられる空間に。
・施設全体がユニバーサル適合施設。授乳室には、自動で使用済みおむつを真空パックするごみ箱も設置。

●施設所在地：広島県廿日市市下平良　●設計：（株）スペース、鹿島建設（株）





プレミアヨコハマ

プレミア・インターナショナル株式会社

レンタル方式で365日の安心を実現

・建設コストを抑えながら最新の設備を備えるため、トイレシステム一式をレンタル方式で採用。保守・保全・修繕等の維持管理においても、トイレシステムメーカーが月々のレンタル料金内で24時間365日対応してくれることにより、突発的な費用が発生せず、資金管理が容易に。
・子供連れの利用客や小さな子供が安心して快適に利用できるよう、臭いや清潔さに配慮したほか、プライバシーが優先され、密室性の高いトイレブース内での事故・事件を未然防止・早期発見できるよう、センサーを設置。
・これにより、買物をしている最中に子供が1人でトイレに行っても、親が安心して買物を継続。

●施設所在地：神奈川県横浜市都筑区中川中央　●設計：（株）木村技研

交通機関

成田国際空港 第2旅客ターミナルビル "NARITA SKY LOUNGE 和"内 「GALLERY TOTO」

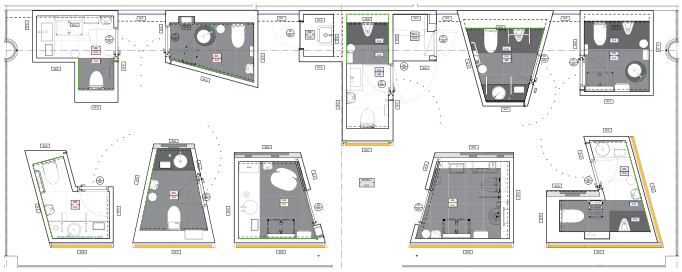
成田国際空港株式会社

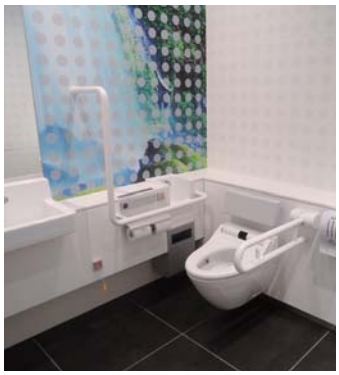
日本のトイレ文化・技術力を世界に発信

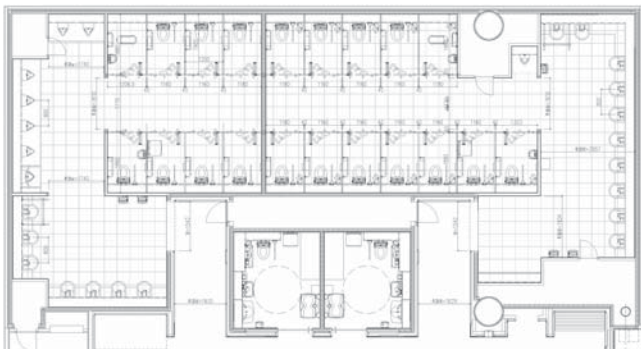
・日本の玄関口である成田国際空港において、日本のトイレ文化・技術力を世界に発信していく「ギャラリー型トイレ」。出国手続後のエリアに設置。
・男女4か所ずつの内装の異なるブースのほか、多機能トイレと授乳室を有する。各ブースごとに大便器、洗面台、ハンドドライヤーを設置。
・便器はTOTO（株）の最新型。節水機能、清潔機能が特徴。
・トイレ外周3方をガラスで覆い、トイレブースの壁面にはLEDパネルを設置、トイレライフ、水、旅、空港などをモチーフにしたダイナミックな映像を表示。

●施設所在地：千葉県成田市古込 ●設計：クライン・ダイサム・アーキテクツ

日本トイレ大賞







東京国際空港（羽田）国際線旅客ターミナル

東京国際空港ターミナル株式会社

様々な人が利用しやすいユニバーサルデザイントイレ

・障害者団体の利用を想定し、多機能トイレはもちろん、一般のトイレも利用できるよう、トイレ内通路に車椅子同士でもすれ違える十二分な寸法を確保。
・弱視者でも区別がつきやすいよう、器具と内装材のコントラストに配慮。
・扉の表裏の色を変えることで、鍵表示に頼らない利用状況の把握が可能。
・外国人や子供など、あらゆる人に分かりやすい出入口サイン。
・補助犬専用のトイレをターミナル内に設置。

●施設所在地：東京都大田区羽田空港 ●設計：梓・安井・PCPJ東京国際空港国際線旅客ターミナル設計監理共同企業体

日本トイレ大賞

大阪市営地下鉄御堂筋（みどうすじ）線　新大阪駅

大阪市交通局

広々とした「くつろぎの空間」を実現

・ガゼボ（西洋風あずまや）をイメージした、安らぎ・ゆとりを感じることのできる空間。
・通常よりブースを広めに設定。また、車椅子対応やオストメイト（P.16）対応トイレの設置により、多機能トイレが混んでいる場合でも使用可能に。
・パウダーコーナーは、トイレコーナーと動線が重ならない独立した空間。長距離移動者等に配慮し、フィッティングスペースも設置。
・清掃性の高い小便器、幅木脱臭の設置等による清潔な空間の維持。清掃方法も水洗いから乾式に変更。

●施設所在地：大阪府大阪市淀川区西中島
●設計：大阪市交通局建築部　建築施設課

日本トイレ大賞

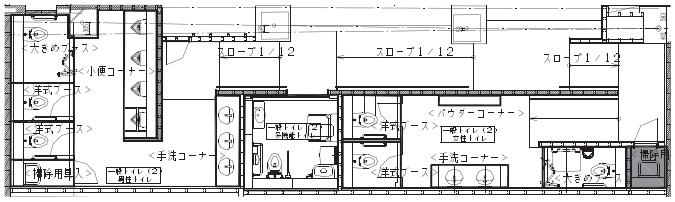
東京地下鉄東西線　日本橋駅

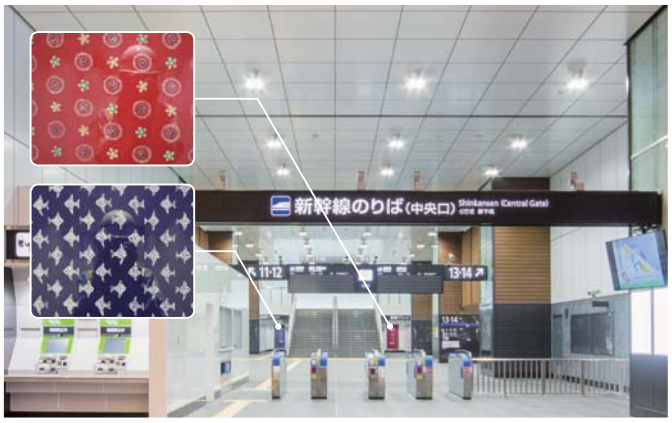
東京地下鉄株式会社

現代の日本橋にふさわしい機能とデザインを両立

・地下という狭い空間の中で快適なトイレ整備を進めるべく、トイレの検討会を開催して課題を抽出。
・おむつ交換台、パウダーコーナーを設置。パウダーコーナーは化粧台の高さにバリエーションを持たせることで選択することのできる仕様。
・閉鎖感を解消するために、照明の改善や壁面を透明感のあるガラス仕上げにするなど、開放感のあるデザインに。

●施設所在地：東京都中央区日本橋　●設計：（有）設計事務所ゴンドラ





北陸新幹線　富山駅

独立行政法人　鉄道建設・運輸施設整備支援機構

地域の伝統を取り入れた障害者にもやさしいトイレ

・トイレ入口に地元の伝統工芸品（和紙）を取り入れた案内サインを設置。
・設計・施工段階で、地域の障害者団体と意見交換会を開催し、様々な意見を活用。多機能トイレを2ブース設置し、異常時用フラッシュランプ、視覚障害者用の触知案内板等を設置。
・子供用トイレやベビーチェアの設置など子供連れへ配慮。また、擬音装置、パウダーコーナー、フィッティングボードも設置し、女性にも配慮。

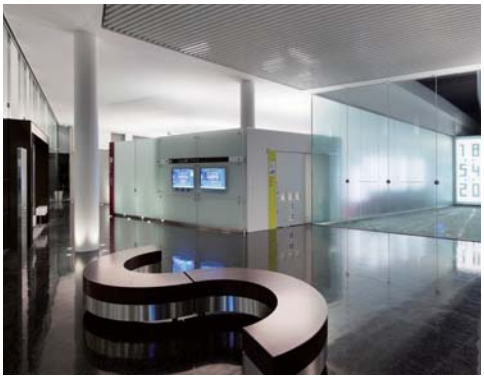
●施設所在地：富山県富山市明輪町　●設計：（独）鉄道・運輸機構、ジェイアール西日本コンサルタンツ（株）

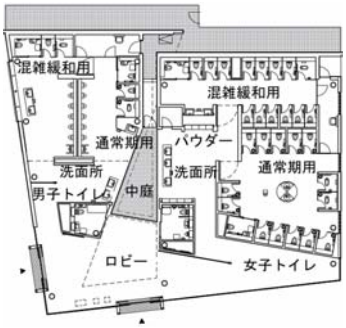
新東名高速道路
NEOPASA清水（ネオパーサ）

中日本高速道路株式会社　東京支社

トイレの最適便器数を決定する方法論を開発

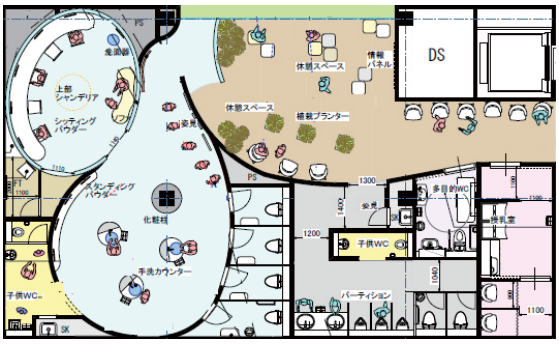
・高速のSA（サービスエリア）・PA（パーキングエリア）等の休憩施設に設置されるトイレは、一般の公共トイレとは特性が異なり、一旦高速に入ると外に出るまで休憩施設を利用するほかに排せつの手段はなく、トイレの整備状況が利用者の行動の制約条件となるため、快適・便利で楽しく美しい、オアシス的な空間を提供。
・道路の特性の似た新東名・東名高速道路の休憩施設では、週末及び繁忙期における待ち行列が常態化。これを受け、利用実態調査の結果等から利用客の諸特性を整理し、利用客の到着確率とトイレの待ち行列発生過程を予測することで、最適便器数を決定する方法論を開発。NEOPASA清水を始めとする新東名・東名高速道路のSA・PAの最適便器数算出に適用。また、空きブースに利用客を誘導しやすい空間設計とすることとも合わせ、行列を解消。





●施設所在地：静岡県静岡市清水区小河内
●設計：（株）浦野設計、高橋建築都市デザイン事務所、（有）設計事務所ゴンドラ

日本トイレ大賞



新東名高速道路
NEOPASA駿河湾沼津（するがわんぬまづ）（上り線）プレミアムトイレ

中日本高速道路株式会社　東京支社

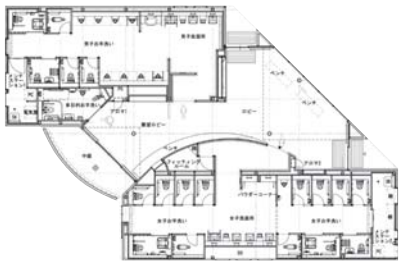
「わざわざ行ってみたくなる」トイレを追求

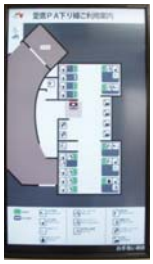
・新東名で唯一海を見渡せる場所であるため、広域から人・モノが集う港町を思わせる外観デザインで、観光客がゆったりと過ごせる空間づくりを実施。海を眺望できるのは2階テラスであることから、2階に誘客するため、社内に女性ワーキンググループを設け、「わざわざ行ってみたくなる」女性トイレを検討し、2階に配置。
・動線は、利用者がトイレ～洗面台～パウダーコーナーへと自然に一方通行で流れていくよう工夫。女性の方がトイレの利用時間が長いことから、男女トイレ前にベンチ等を設置した待合室を配置し、男性が待つための快適なスペースを確保。
・オストメイト（P.16）対応設備を備えた多機能トイレや授乳室のほか、誰でも子供に付き添えるよう、子供用トイレを男女それぞれのトイレ内に設置。

●施設所在地：静岡県沼津市根古屋　●設計：中日本高速道路（株）東京支社 女性若手WG（実施設計・協力：三菱地所設計（株））

東名高速道路　愛鷹（あしたか）PA（上下線）

中日本高速道路株式会社　東京支社





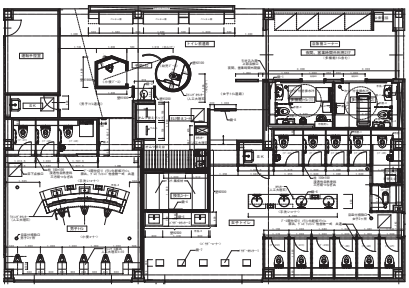
上りは「海」、下りは「山」がコンセプト

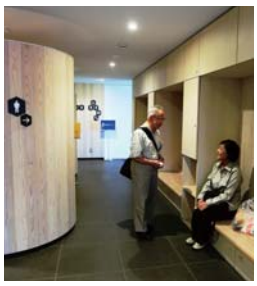
・1日約2,000台の車が立ち寄るPA。眺望に恵まれ、平日はトラックドライバー、休日は団体観光客が多い特徴を考慮し、自然を感じ運転の疲れを癒す空間をコンセプトに改修。
・トイレ入口付近に待合と交通情報提供スペース、ロビー奥に運転の疲れを癒す眺望スペースを配置。
・バス到着時に利用者が極値的に増加する高速のトイレの特性を踏まえ、混雑対策として、各ブースの利用状況をリアルタイムに電光表示する利用案内表示板と利用中ランプを設置。利用者がほぼいない時間帯もあるため、閑散時の利用が特定のブースに偏らないよう、利用を分散させる視線誘導サインを設置。

●施設所在地：静岡県沼津市宮本　●設計：黒川紀章建築都市設計事務所（1969年開通時）、（株）協和コンサルタンツ（改修時）

中央自動車道　談合坂（だんごうざか）SA（下り線）

中日本高速道路株式会社　八王子支社

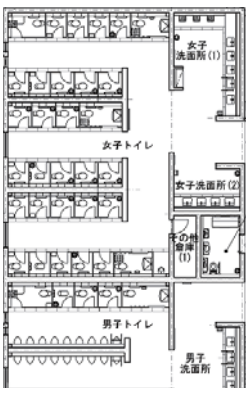




再生水利用に加え自家発電設備を設置した災害に強いトイレ

・都内を出て最初のSAであることもあり、1日の立寄人数は、平均で平日6,000人、休日1万人と、中央自動車道でも有数の利用者数。
・不特定多数の利用者のため、ピクトサイン・多言語での案内、ベビーチェア、おむつ交換台のブース内設置、オストメイト（P.16）対応の多機能トイレ等を整備。
・再生水を利用することに加え、自家発電設備を設置。停電・断水時にも利用できる災害に強いトイレとして整備。
・不要な混乱・混雑への対策として女性トイレの入口に満空表示板を設置。

●施設所在地：山梨県上野原市野田尻　●設計：（株）ピーエーシー技術士事務所、（株）テクナム、（有）アーク設計



道の駅　パティオにいがた

新潟県見附市

ゆったりスペースを確保した開放空間

・「道の駅」のトイレは、24時間使用できることが設置の条件で、最も重要な機能であるため、トイレを入口に近い場所かつ建物の中心に設置し、他の施設をその周辺に配置。建物の設計のテーマでもある「開放空間」づくりを、トイレにも適用。
・男女のトイレそれぞれにおいて、大きなガラス戸の先に坪庭をデザイン。また、壁材には県産材の「越後杉」を多用し、トイレのサインには地域の伝統行事である大凧合戦を取り入れるなど、地域性も重視。たくさんの自然光、坪庭の景観、優しい木の温もりが、開放的でいつまでも居たくなるような心地良い空間を創出。

●施設所在地：新潟県見附市今町
●設計：【基本】(有)設計事務所ゴンドラ、【実施】(株)理建設計

日本トイレ大賞

学　校

新清和台幼稚園

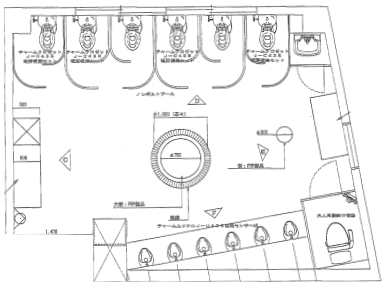
学校法人 森友学園

テーマは「行きたくなるトイレ」

・子供たちが「行きたくなるトイレ」をテーマに「陽だまりの森」をデザイン。トイレに名称を付けるとともに、大きな木の周りに子供が好きな動物やモチーフを配置。
・一度「陽だまりの森」へ行くとトイレを嫌がらなくなり、排せつの自立が急速に早まる。
・子供が笑顔でトイレから出てくるようになった上、中には用を足すことを忘れてしまう子供や、トイレで遊び、なかなか出てこない子供がいるなど、想定以上の効果を上げた。
・乾式床を採用し、清潔を維持。柵、ドア、手洗い場、便器等のカドは全て丸みを帯びさせて、ケガ防止に配慮。

●施設所在地：兵庫県川西市清和台西　●設計：(株)ジャクエツ

日本トイレ大賞



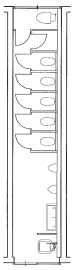
所沢ひまわり幼稚園

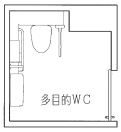
学校法人 太陽学園

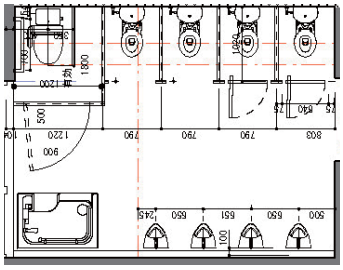
トイレを「夢の世界への入口」に

・主に使用する対象が幼稚園児であることから、トイレを「嫌な空間」から「夢の世界への入口」へと感じられるような工夫を実施。全5か所の壁面に、それぞれの年齢に沿ったテーマの壁画を描き、トイレのイメージを一新。トイレ壁画のイメージを、部分的に園舎の壁面へも描き込み、総合的にイメージが連なるように配慮。
・壁面は安全な水性絵の具で描かれており、上書きができ、比較的簡単・安全に補修可能。
・乾式床の導入により、清掃が簡易となり、より衛生的な管理が可能に。

●施設所在地：埼玉県所沢市三ヶ島　●設計：シーラカンスK&H　●壁画制作：須磨 阿弥







幼保連携型認定こども園　はまようちえん

学校法人 小寺学園

子供たちを「孤立させない」トイレ

・明るさ、開放感、立地によって、トイレに入る子供たちを孤立させない。内部が職員室からも見え、安心・安全。
・フロア素材は、多くのトイレで用いられるウレタン塗装を採用せず、エントランスと続きのホワイトオーク無垢材（オイル仕上げ）を贅沢に使用。裸足で生活する子供が違和感の無い、皮膚感覚までも快適なトイレ。
・汚した際、濡れた床を子供がただちに拭き取れるモップを配備し、清掃を習慣に。大便器ブースの扉は、軽くて指を挟まない構造。入りやすく大人が介助しやすい扉の無いブースは、外から見えないように奥に配置。最奥にシャワーブースと大人用トイレブースを配置。

●施設所在地：兵庫県尼崎市浜　●設計：寺地洋之+アークアンドトークアソシエイツ

釧路市立共栄小学校、鳥取小学校、昭和小学校

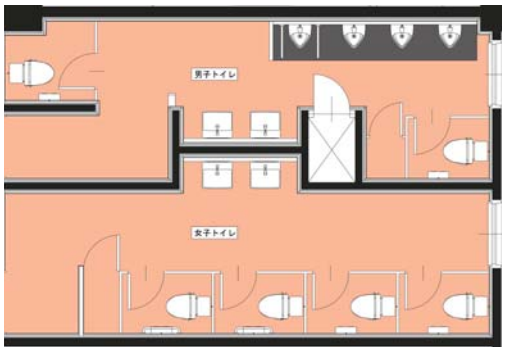
釧路市教育委員会

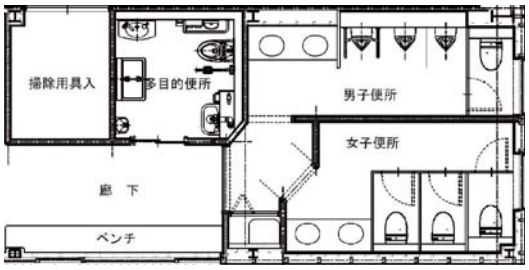
開放的で清潔感があり、災害対策も万全

・財政が厳しい中、老朽化・災害対策を行うため、民間業者の創意工夫を活用する「PFI（Private Finance Initiative）方式」によって整備。
・上履き使用であることから、ビニル系の床材を採用し、乾式清掃。また、床から高さ約1.8mはコーティングされた壁材を使用し、清掃を容易に。男子トイレにおいて一般床と小便器使用時の踏込位置が色で容易に判断できるよう配慮するとともに、飛散防止を目的に小便器には的シールを設置するなど、きれいなトイレの持続に配慮。
・段差解消とともに洋便器化。
・災害対応として、マンホールトイレを新設したほか、校舎1階にオストメイト（P.16）対応の多機能トイレも設置。

●施設所在地：〈共栄小学校〉北海道釧路市双葉町〈鳥取小学校〉北海道釧路市鳥取北〈昭和小学校〉北海道釧路市昭和中央　●設計：（株）武田建築設計事務所

日本トイレ大賞





松伏（まつぶし）町立松伏小学校、金杉小学校、松伏第二小学校、松伏中学校

埼玉県北葛飾郡松伏町

「コミュニケーションの場」になるトイレ

・町内の小中学校の校舎新築や大規模改修、耐震化の際に、校舎及び体育館のトイレも同時に新設・改修。児童・生徒・職員にとって、自宅のトイレより使用頻度の高い学校のトイレを「憩いの場」「コミュニケーションの場」として空間設計。
・児童・生徒の日常の清掃で清潔さを保持し、不具合に迅速かつ安価に対応できるよう、汎用性のある一般的な器具を採用。乾式床を採用し、洋式化するとともに小便器の自動洗浄を導入して、清掃・維持管理を容易に。
・トイレ入口のドアをなくし、バリアフリー化をし、オストメイト（P.16）対応の多機能トイレも設置。
・体育館は、地域に施設開放を行うとともに避難所であることから、児童・生徒及び地域住民の利用を考慮。仮設トイレに対応した災害用マンホールも新設。

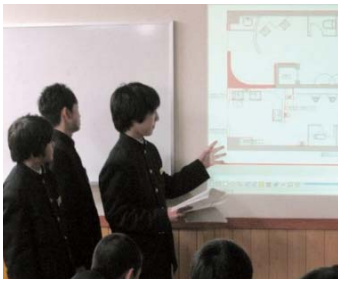
●施設所在地：〈松伏小学校〉埼玉県北葛飾郡松伏町ゆめみ野東〈金杉小学校〉埼玉県北葛飾郡松伏町大字大川戸〈松伏第二小学校〉埼玉県北葛飾郡松伏町田中〈松伏中学校〉埼玉県北葛飾郡松伏町大字大川戸　●設計：〈松伏小学校〉（株）マルタ設計〈金杉小学校〉（株）松下設計〈松伏第二小学校〉（株）慎建築設計事務所〈松伏中学校〉（株）共同設計社

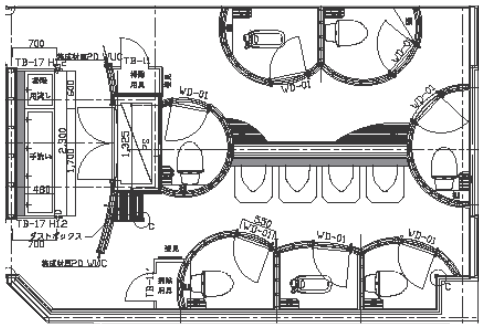
みんなでつくるトイレ
（近江八幡市内の全４中学校）
近江八幡市教育委員会

愛着の湧くトイレ空間を目指して

・滋賀県近江八幡市内の学校施設は築後30年以上経過しており、トイレは5K（P.16）との印象により「トイレに行きたくない。」と我慢したり、生活様式の変化により和式便器が使えない生徒もいた。
・2011年度より、市内全4か所の中学校において、生徒会を中心とした2か年のワークショップで、「学校に必要なトイレをつくろう」を目標に掲げ、学校ごとに様々な取組を実行。これまでの行政主導の改修ではなく「学校」や「生徒」の意見を聴いて共に考え作り上げることにより愛着が湧き、大事に使うことに期待。2014年度で全学校の工事完了。
・1年目は改修プランの作成を通じ、トイレに関する情報収集、プランを説明するための表現やプレゼンの方法を学習。2年目には施工体験として工事現場の見学、内装材の選定やサインのデザイン、記念制作等を実施。
・完成後には、トイレ清掃・維持管理を生徒自らが考えて啓発ポスターを作製。市教委では、維持管理等についての活動の企画等を継続して実施。

●活動地域：滋賀県近江八幡市 ●設計：〈八幡東中学校、八幡中学校〉後藤平建築事務所〈八幡西中学校、安土中学校〉（株）アビエルタ建築・都市





近江八幡市立桐原東小学校
近江八幡市教育委員会

子供たちの夢が詰まった ユニークトイレ

・近江八幡市内の中学校のトイレ改修工事が2014年度で完了することから、並行して2013年度から桐原東小学校でもトイレ改修を開始。
・小学校では、担当者との年齢差が大きく、中学校と同様の取組は困難であると考え、児童の意見をより細かく聴き取るための手段として、大学院生の協力を得て設計・施工の2か年にわたるワークショップを開催。
・児童たちが意見を言いやすい環境づくりに努めた上で、児童たちが求めているトイレ像のヒアリング、模型作り等によってプランを計画。また施工完了に合わせ大学院生により「おそうじマニュアル」を制作し、トイレ環境の保全のためには掃除が大事であることを児童に伝えた。
・児童・学生参画型のトイレ改修は、その後の小学校の改修工事にも採用され、2校目以降は教職員とのプラン検討会も実施するなど、工夫を継続。

●施設所在地：滋賀県近江八幡市土田町
●設計：後藤平設計事務所

日本トイレ大賞

通学路トイレ「すずめのおやど」清掃維持管理活動

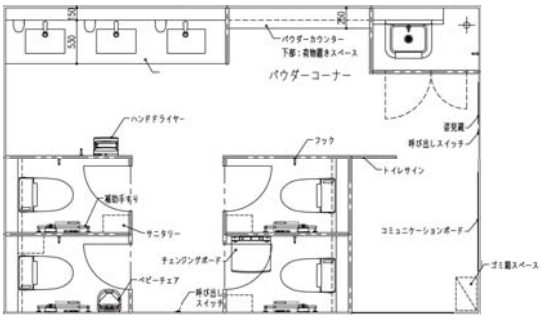
「すずめのおやど」清掃維持管理PTA

保護者、地域、学校、行政一体で子供を見守るトイレ

・長崎県諫早市において、通学距離が最長4kmとなる通学路には、山道も含め途中にトイレがなく、特に低学年児童にとって不安が大きかった。こうしたことから、屋外トイレが持つ5K（P.16）を払拭した安心・安全なトイレ設計のため、PTA・地域・学校が参画し、設計士と設置後の見守りと管理の在り方を十分協議した上でトイレを設置。
・設置後の「造るのは簡単、造った後が肝心」を具現化し、安全管理・保全管理について保護者・地域・学校・行政が一体となって共有することで、12年にわたる親子でのトイレ清掃活動となって継続。地域住民も利用し、見守りの一助に。

●活動地域：諫早市立森山東小学校田尻地区通学路　●設計：（有）設計事務所ゴンドラ

日本トイレ大賞



東京大学（本郷）中央食堂女子トイレ

国立大学法人　東京大学

産学協力で設備も充実

・2014年に「東京大学トイレ環境改善プロジェクト」を立ち上げ、合計53棟257か所のトイレ改修を実施。
・1日約3,000名が利用する中央食堂内にあるトイレは、留学生を含む学生や教職員のほか、学外（国内外の教育研究関係者・旅行者、近隣住民等）の利用も多いことから、東京大学と（株）LIXILが共同でコンセプトモデルをデザイン。
・「ユニバーサルデザイン」「女性配慮」「快適性」「防犯・安全」「清潔・環境配慮」というキーワードを設定。
・手すり、ベビーチェア、フィッティングボードの他、PCを持ち歩く学生等、手荷物が多いことに配慮し、フックや荷物置場をブース内や洗面台・化粧台下に設置するなど、設備面も充実。

●施設所在地：東京都文京区本郷　●設計：東京大学トイレ環境改善ワーキンググループ＋（株）LIXIL

移動・仮設トイレ

おりひめトイレ

積水ハウス株式会社、TOTO株式会社

震災の教訓を活かした仮設トイレ

・行政（宮城県仙台市）、住宅メーカー、住宅設備メーカーの共同開発による、震災の教訓を活かした女性や子供にもやさしい仮設トイレ。
・女性の従業員、技術者、仙台市のデザイナーも含めた女性中心のメンバーで女性視点にて作り込み。
・水洗式洋式便器、温水洗浄便座、流水擬音装置、嫌な臭いを軽減する機械式換気設備といった機器や、従来型の2倍広く、間接照明を用いた明るい空間により快適性を実現。
・ベビーチェア、荷物置きカウンター、コートフックなどにより子供連れの快適利用へも配慮。
・防犯ベル、警告灯、強固なドアと鍵による防犯対応で安心感を提供。
・複数台の配置を想定した形状により混雑を緩和。
・外壁デザインについては、地域の特色を出したデザインや企業広告などを掲載したデザインとすることも可能。

日本トイレ大賞

女性用仮設トイレの普及活動

コマツ「女性の建設現場への進出支援ワーキングチーム」

女性の建設現場進出の一助に

・建設現場で活躍する女性が安全、快適に使用できるトイレを目指し、現場で活躍する女性の意見を取り入れ、清潔で着替えもできるシンプルかつ機能的な空間として製作。幅広い普及を目指してレンタル開始。
・現場の様々な環境を考慮し、温水洗浄便座が使用可能なタイプと、洗浄水の補充だけで使用可能な簡易型との2タイプを用意。
・建設現場で活躍している女性、これから進出しようとしている女性のトイレに関する悩み・不安を解消。更に安心・快適な職場環境を実現し、女性の建設現場進出の一助に。

日本トイレ大賞

農業女子的トイレの開発と普及

株式会社レンタルのニッケン

農業に従事する女性を応援するバイオトイレ

・女性農業従事者（農業女子）用の仮設トイレを開発。
・開発に際しては、実際に就農している農業女子に参加してもらい、農業女子の目線で仕様を検討。
・オガクズを利用した資源循環型のバイオトイレを採用。汲取りや洗浄水不要であり、臭気対策を実施。温水洗浄便座を導入。
・家に戻らず着替え等ができるよう、ドレッサーやフィッティングボードを設置。エアコンや椅子も組み込み、休憩場所としても利用可能。

多目的トイレカー

ベクセス株式会社

設置・撤去が簡単な移動式多目的トイレ

・屋外イベント等に推奨される、多目的トイレを装備した車両。
・設置撤去作業が簡単で、駐車スペースがあればすぐ稼働可能。
・オストメイト（P.16）対応設備を導入。また、子供連れのためにおむつ交換台・ベビーチェアも設置。
・温水洗浄便座、エアコン、鏡、フック等を設置し、快適な空間を創出。
・ドアは二重ロック、非常押ボタンと屋外パトライトを設置し、安全性にも配慮。

日本トイレ大賞

自走式バイオトイレカー

優成サービス株式会社

上下水道不要の移動式バイオトイレ

・工事現場等のみならず、地域のイベントなど多方面で活用可能なバイオトイレ搭載車両。設営・撤収が容易。
・オガクズを利用した環境にやさしいバイオトイレ。
・バイオトイレのため上下水道不要。また、サブバッテリーが2つ付いているため、電源のない場所でも使用可能。このため、ライフラインが分断してしまうような災害時にも使用可能。
・昇降ステップ等により、高齢者や子供、女性に配慮。
・休憩用ベンチ、荷物掛けフック、鏡などを設置。
・車椅子のまま乗車できるように電動リフトを完備した福祉バイオトイレカーも開発。現在は「特定非営利活動法人　やさしくなろうよ」が貸与を受け、屋外イベントなどで活躍中。

PR広告型仮設トイレ

株式会社ユーケン

使うだけでなく広告を「見せる」トイレ

・観光地・野外イベント・公園等に活用できる、外装広告掲載可能な仮設トイレ。
・大きな外装面を利用して広告ラッピングが可能。企業広告のほか、地方公共団体や地域のマスコットキャラクター等のPRにより、地域貢献の一助にも。
・外国人観光客等の利用につながる便利なFree Wi-Fiサービスが利用可能。
・女性トイレには、大きな鏡、擬音装置、温水洗浄便座を完備。企業CM、観光地PRのために32インチモニターも取付可能。
・簡易水洗式で、上部にある約1,500リットルの浄水タンク、約2,500リットルの汚水タンクは、災害時等にも活用可能。

公衆トイレ等

公衆トイレ ネーミングライツ事業

東京都渋谷区

「また行きたくなる街と公衆トイレ」を目指して

・区内の公衆トイレを対象としたネーミングライツ事業。区と企業の協働によりトイレ環境を改善。
・企業側は、年間契約料のほか、清掃、維持管理等の役務の提供、又は施設そのものの改良を実施。
・事業者選定に当たり選定委員会を開催。事業者決定後に、地域へも紹介するとともに、地域からの要望を反映した環境整備を実施。
・誰もが快適に利用できるトイレにする工夫から地域を活性化させ、国際的な観光都市としてのまちづくりを目指す。

●活動地域：東京都渋谷区（渋谷区土木清掃部緑と水・公園課が担当）

日本トイレ大賞

新横浜駅北口公衆トイレ ネーミングライツ事業

神奈川県横浜市

企業とコラボレーションして維持メンテナンス

・民間企業とネーミングライツ契約を締結。命名権付与に対する対価をトイレメンテナンス等の役務で補完。
・毎日の清掃に加え、トイレの専門業者による月1回の定期診断維持管理を実施。
・公衆トイレとしては例の少ない尿石防止剤や消臭器のほか、便器クリーナー、ハンドドライヤーを設置。
・トイレ内照明をLED照明に切り替え、消費電力を抑えて24時間点灯を実現。
・トイレ入口に大きなピクトグラムを設置。多機能トイレには、オストメイト（P.16）に配慮したパウチ・しびん洗浄水栓付背もたれを設置。

●施設所在地：神奈川県横浜市港北区新横浜（横浜市資源循環局業務課が担当）　●設計：須山建築設計事務所

札幌コンサートホール

公益財団法人 札幌市芸術文化財団

待ち時間ストレスが少ない女性トイレ設置数

・大ホールの女性トイレ個室設置数は3か所60室、小ホールは1か所16室と、利用者が待ち時間を苦痛に感じないゆとりのある設置数（身体障害者用含む）。
・女性入場客の約6割が休憩時間にトイレを利用する場合、1人当たり120秒の占有時間が許容される環境。
・空室の際にだけ見える番号札をトイレのドアに設置し、ロスなくトイレの空室に誘導できる工夫。
・高齢者の歩行の困難解消等の観点から、トイレへの動線における段差をなくし、パウダーコーナーは表面を加工したタイル敷で、床が濡れても滑りにくい構造。

●施設所在地：北海道札幌市中央区中島公園
●設計：（株）ドーコン ●備考：札幌市芸術文化財団は指定管理者で、設置者は札幌市

日本トイレ大賞

用語解説

●【トイレの３K・５K】
トイレの３Kは「汚い」、「臭い」、「暗い」の頭文字を取ったもの、５Kは３Kに「怖い」、「壊れている」を加えたものです。

●【オストメイト】
直腸がんや膀胱がんなどが原因で臓器に機能障害を負い、人工的に腹部へ人工肛門や人工膀胱の「排せつ口（ストーマ）」を造設した人を「オストメイト（ostomate）」と言います。オストメイトの人は括約筋がなく便意や尿意を感じたり、我慢することができないため、便や尿を溜めておくための袋＝「パウチ」を腹部に装着し、パウチに溜まった排せつ物は一定時間ごとに便器や汚物流しに捨てる必要があります。このときに、パウチや腹部を洗浄する必要があります。「オストメイト対応トイレ」とは、そのための特別な設備を備えたトイレのことで公共交通機関を中心に右図のようなマークが表示されています。

途上国支援

途上国のトイレを改善するプロジェクト／NEXT DOOR Project

株式会社LIXIL

人に寄り添ったトイレの改善・支援を実施

・途上国には、排せつは野外、夜間はビニール袋への排せつ・屋外投棄という公衆衛生インフラ未整備地域が存在。そのような地域では、降雨により汚物が家屋内に浸入し感染症が蔓延するなどの事態があった。また、野外排せつ、屋外トイレの夜間使用は性暴力リスクにもさらされる。
・そこで「途上国のトイレを改善するプロジェクト」では、①「無水循環型トイレ」整備、②（株）LIXILが開発した節水で臭いや虫に対応した「Safe Toilet pan（SaTo-pan）」寄贈、③学校トイレの改善（ケニア、中国、インド等）という3つの方策を実施（上記①②で世界9か国約300万人のトイレ環境を改善。排せつ物の堆肥化で現地の農業生産性向上にも寄与）。
・また、「NEXT DOOR Project」では従業員の自主的活動により、上記活動を行っている国・地域の女子への生理用品・生理教育の提供も実施。

●活動地域：ケニア共和国（ナイロビ市ムクルスラム）他

日本トイレ大賞

●途上国のトイレを改善するプロジェクト

ケニアのトイレの現状

SaTo-pan

●NEXT DOOR Project

アフリカにおけるエコサントイレの建設

公益社団法人 日本国際民間協力会（NICCO）

衛生環境・土壌改善に効果のあるエコサントイレ

・活動地域には、土地の過剰使用による農業生産性の低下、非衛生なし尿管理による健康被害、そしてこれらによる貧困の問題があった。また、生活用水の流入でビクトリア湖の水質汚染も深刻に。
・野外排せつ、もしくは地面に穴を掘っただけの落下式トイレを使っていた同地域に、し尿分離型環境衛生式トイレ（エコサントイレ：エコロジカル・サニテーション・トイレ）を建設。（マラウイ共和国では、7年間で約1,000基建設）。
・排せつ物を衛生化し、便を堆肥として、尿を液肥として利用。これらの堆肥により、持続的に農業生産性を向上。また、人々は化学肥料を買う必要がなく、支出の抑制が可能。
・持続的に衛生的なし尿処理が可能。
・衛生環境改善意識を促す活動も実施。
・現地で手に入る材料で現地の人が建設でき、持続可能。

●活動地域：マラウイ共和国（ンコタコタ県、ドーワ県、リロングウェ県）、ケニア共和国（カカメガ郡）

日本トイレ大賞

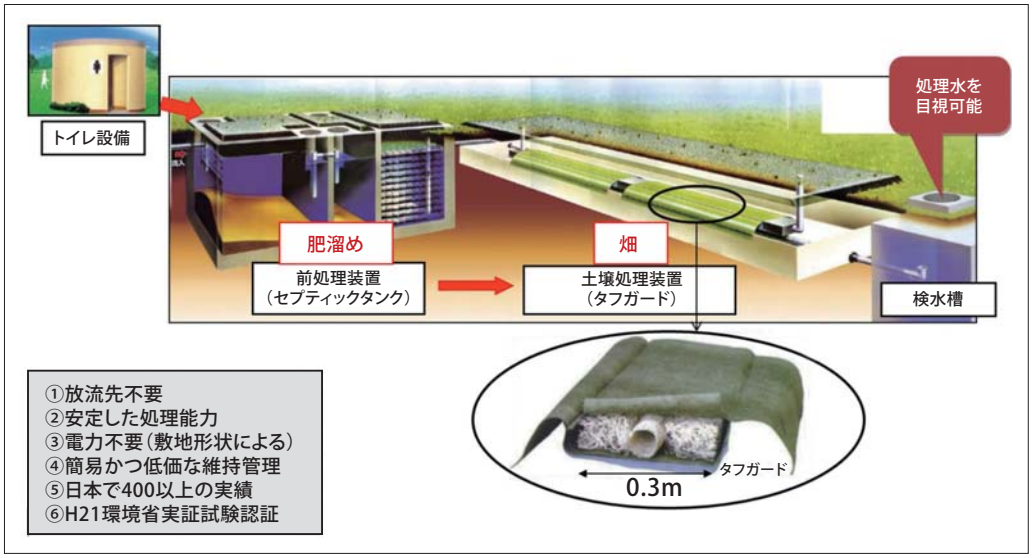
ソロモン諸島における環境配慮型トイレ普及事業

オリジナル設計株式会社

環境配慮型トイレを通じ街全体の衛生環境の改善へ

・環境配慮型トイレTSS（Taisei Soil System）の導入によりソロモン諸島ホニアラ市の衛生環境を改善。ホニアラ市では、人口増加・野外排せつにより、水環境汚染、健康被害、漁業・観光への悪影響が発生していた。
・TSSは、「タフガード」という繊維状の素材などを用いた無電源・無放流の土壌処理・蒸発散方式の処理システム。未処理排水の地下水浸透を止め、排水を蒸発散させて減らし、セプティックタンク（前処理装置）に溜まる汚泥は、定期的に引抜きを実施。

●活動地域：ソロモン諸島ホニアラ市　●備考：大成工業（株）、一般社団法人　日本環境衛生センター、日本・ソロモン友好協会、埼玉県と協力して実施



地域生活改善のためのトイレ建設プロジェクト

特定非営利活動法人 日本水フォーラム

女性の自由・プライバシーを守るトイレ

・野外排せつが多いスリランカのある地域において、トイレ建設と意識啓発を通じ、衛生環境や生活環境を改善（50世帯に50基のトイレ設置）。
・取組前は、野外排せつにより、女性の自由やプライバシーの確保、不衛生などの問題があった。
・トイレ建設での物資調達を工夫したほか、住民組織の組成を支援し、積立金制度などトイレの維持管理等に関する話合いが実施されるよう意識啓発に注力。
・こうした活動で得た情報は、「アジア・太平洋水サミット」等を通じ、各国の水に関する問題の優先課題化に向けた政策提言としても活用。

●活動地域：スリランカ（ウバ州バドゥッラ県ウェリマダ地区）　●備考：特定非営利活動法人 日本水フォーラムが運営する「ダルビッシュ有 水基金」のプロジェクトとして実施

災害対応

災害用トイレの技術開発

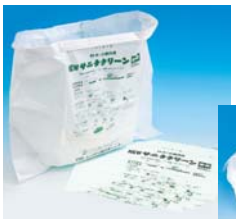
株式会社総合サービス

女性、高齢者、障害者にやさしい災害用トイレ

・災害時にトイレを我慢しがちな女性、高齢者、障害者が、平時に近い状態で利用できるような商品を開発。
・携帯トイレ：業界初の吸収シートと袋を一体化。
・トイレブース：段差がなく3パーツで組立時に工具不要。2人で5～10分以内で組立可能。商品をなるべく一体化させ付属品を少なくし、一つの部品が紛失すると使えないという事態が起きないような構造を考え、開発。
・下水道直結マンホールトイレ：耐震下水道マンホールを利用して排せつ物を処理。便器の脚部を連結部材で一体化。
・車椅子対応バリアフリー設計を導入、和式トイレを洋式トイレとして使用できる折畳便器や、簡易水洗式トイレ等を開発。
・約300か所の自治体、約250社の企業などに納品。
・約150回の防災訓練、約70回の防災関連展示会出展。
・1995年から20年間の携帯トイレ累計出荷枚数約4,500万枚。

日本トイレ大賞

●携帯トイレ各種



既設の洋式トイレに被せて使用できる携帯トイレ

袋自体でおまるとして使用可能

アウトドア用（透けにくい濃い緑色）

介護用（受けバケツにジャストサイズ）

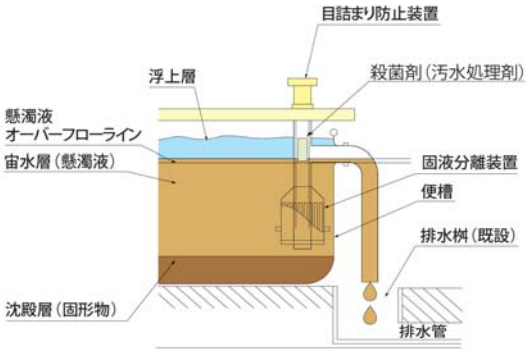
●組立トイレ各種

マンホール直結水洗式トイレ
トラップでマンホールからの臭気と害虫の侵入を防ぐ

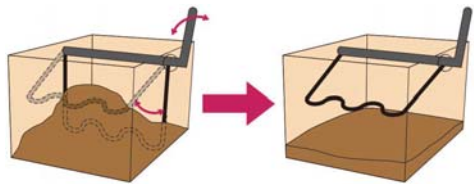
3パーツで工具不要の簡単組立。
強固で透けないパネル

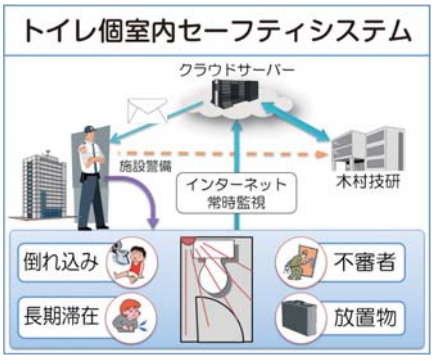
和式トイレを洋式として使用できる折畳便器

①固液分離装置により液化分のみ殺菌処理され排水管へ排出



②クラッシャーによって山が崩され、懸濁化





災害用組立トイレの開発

株式会社木村技研

組立も後始末もラクなトイレ

・1981年に開発後、全国の自治体及び民間で導入。
・設営・使用が容易で、排せつ物の集中管理及び排出が合理的に行える。
・固液分離方式※1、クラッシャー機構※2により、1基で約5千～1万回分の大量処理が可能。

※1 便槽内の排せつ物を固体と液体に分離させ、液体分のみ殺菌処理され、排水管に排出することによって処理能力を大幅に向上。※2 便槽内の便の山を崩し、懸濁化。

・各パイプフレームはワイヤーで連結され、簡単に10分程度で組立可能。
・ニーズを受け、後片付けを含むレンタル有。
・ほかに、①防犯カメラ設置不可のブース内の異変を警備室に集約できる遠隔見守りセンサーシステム、②節水や尿石・臭気対策なども開発（西武鉄道、京都CUBE、ニュー新橋ビル等で導入済み）。

日本トイレ大賞

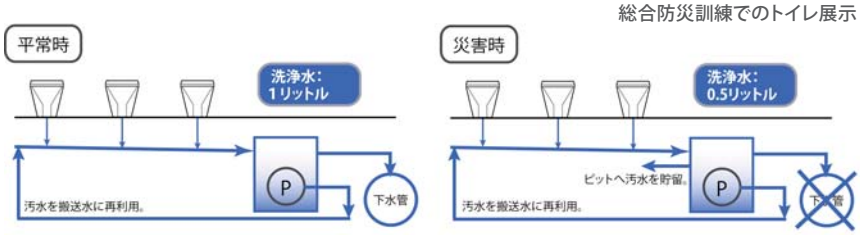
災害時トイレの改善及び研究

千葉県浦安市

組立式トイレに子供・女性の利便性をプラス

・浦安市では、2011年の東日本大震災時に、埋立地を中心に市域の86%で地盤の液状化現象が発生し、約1万1,900世帯の下水道の使用制限を実施。900基超の仮設トイレを設置。安全や衛生面などで様々な課題が発生。
・この教訓を踏まえ、仮設トイレのトイレ環境の向上を目的に、市都市環境部内の女性職員の代表により「災害時トイレ対策研究会 ベンナス∞（エイト）」を設立。災害時のトイレの在り方を検討し、「女性の視点で考える災害時のトイレの在り方」を取りまとめ。
・仮設トイレメーカーへの助言により、組立式トイレに子供や女性等の使用を踏まえた付属品をセットした「H−3型・誰でもトイレ」が製品化されるなど改善に貢献。
・平時使用可能で、災害時に下水道が途絶した場合でも水洗化できる便槽を備えた上、節水（平時1L、災害時0.5L）。環境配慮型災害時トイレを研究開発するメーカーと協力し、市役所第二庁舎の一部のトイレで実証実験を実施。

総合防災訓練でのトイレ展示



●活動地域：千葉県浦安市（浦安市総務部防災課が担当）

災害時の避難所等におけるトイレ対策

兵庫県

災害時のトイレ対策に特化した「手引き」を作成

・1995年の阪神・淡路大震災など避難所生活において、劣悪なトイレ環境からトイレに行く回数を減らそうと水や食事を摂らないようにするなどにより、かえって体調を壊してしまう避難者も。
・避難所での生活が長くなるほど、衛生的で、安心して使用できるトイレを確保することが重要であるため、有識者等で構成する検討会を設置し、「避難所等におけるトイレ対策の手引き」を2014年4月に作成。
・本手引きは災害時のトイレ対策に特化したもので、写真や図表の掲載、チェックシートの提示等、避難所等担当者の実務に役立つよう具体的に記載。
・本手引きを活用し、市町防災担当職員のほか、避難所運営に携わる地域の世話役や自主防災組織のリーダー等を対象とした避難所の開設運営訓練等を実施。

●活動地域：兵庫県（企画県民部災害対策局災害対策課が担当）

災害時トイレプロジェクト

特定非営利活動法人 日本トイレ研究所

災害時における衛生対策の確立・徹底を目指す

・災害時のトイレに関する活動を始めたきっかけは、1995年の阪神・淡路大震災。
・発災後に、「トイレが原因で命を落とさない」「トイレで困る人をなくす」ことを目的とし、災害時のトイレ衛生対策を確立し、徹底させていくために「人材育成」「避難所の環境整備」「教育・啓発」の3分野を立体的に組み合わせながら実践。
・「災害時トイレ衛生管理講習会」を開催し、防災トイレ計画の作成を啓発。災害用トイレ企業ネットワークを構築し、災害用トイレの普及啓発に特化したWebサイトを作成。また、児童、保護者、地域住民向けや高校生向けの教育プログラムを作成し実践。さらに、市民向けの啓発冊子を作成し、5万部以上を配布。講演活動も多数。

まちづくり・観光

ぐんまビジタートイレ認証制度

群馬県

認証制度を通じ県内トイレのブランド化を目指す

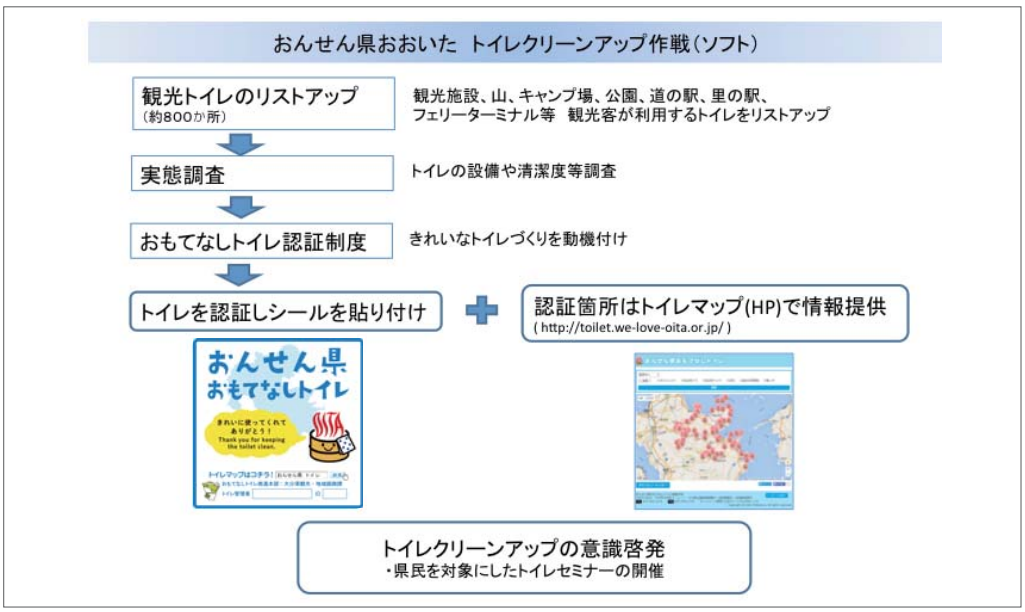
・いかに優れた観光地であっても、トイレの印象が悪いと観光地全体の印象が悪くなってしまうため、トイレの印象を大切なおもてなしの一つと捉え、2003年に開始。
・清潔、安心・安全、見つけやすさ、使いやすさ等に関する基準に基づき認証。認証は2年ごとの更新、定期的な現地調査、トイレ管理者への清掃等に関する助言・指導を行い、高いレベルを維持。
・2015年4月1日現在で189件215か所のトイレを認証。
・また、認証制度の運用を民間団体（NPOぐんま）に委託することにより、現地調査の徹底やノウハウの蓄積に寄与。

●活動地域：群馬県内全域（群馬県産業経済部観光局観光物産課が担当）

日本トイレ大賞

ぐんまビジタートイレ認証基準

分類		具体的チェック項目	まちなか	道路脇	登山ハイキング	施設内
1 清潔	1	床は清潔か（水は拭き取ってあるか、すべりにくいか）				
	2	便器の汚れはないか				
	3	尿石・尿ダレはないか				
	4	臭気はないか（換気や臭気対策はあるか）				
	5	周囲にゴミや雑草の繁茂などはないか				
2 安心・安全	1	明るさは、昼も夜も充分あるか				
	2	落書きはないか				
	3	故障はないか（便器・排水のつまり、流れない、動かない、照明が点灯しないなど）				
	4	破損はないか（壁・ドアの破れ、鏡・便器の割れ、カギ破損など）				
	5	立地環境は適正か（木の陰等、死角となっていないか）				
	6	管理責任者（連絡先）が明記されているか				（のぞましい）
3 見つけやすさ	1	見つけやすい位置にトイレがあるか				
	2	2方向以上から見える案内表示（ピクトグラム）があるか				
	3-1	歩いて見つけやすい位置に案内表示があるか		／		
	3-2	車で見つけやすい位置に案内表示があるか	／		／	／
	4	男性用、女性用等、入口の判別がしやすいか				
	5	車いすでも利用できるトイレの表示があるか			／	
4 使いやすさ	1	フックまたは荷物置き場があるか				
	2	車いすでも利用できるトイレが一つ以上あるか（手すりの付いた便器、アクセスから段差、広さ、腰掛便座など）			／	
	3	床置き式小便器又は壁掛低リップ式小便器が一つ以上あるか。（低リップは35cm以下が望ましい）				
	4	トイレットペーパーが常備してあるか				
	5	手洗い設備があるか				
	6	きれいに拭いてある鏡はあるか				
	7	すべてのブースに汚物入れはあるか（女子用・多機能トイレブース）				
	8	駐車場があり、車いす利用者駐車スペースがトイレの近くにあるか	／		／	／
5 その他（推奨項目）	1	利用頻度に応じた清掃・管理をしているか	（のぞましい）	（のぞましい）	（のぞましい）	（のぞましい）
	2	清掃者及び清掃日時の記入表示はあるか	（のぞましい）	（のぞましい）	（のぞましい）	（のぞましい）
	3	手すりの付いた便器が一つ以上あるか（多機能トイレ以外）	（のぞましい）	（のぞましい）	（のぞましい）	（のぞましい）



おんせん県おおいた トイレクリーンアップ作戦

おんせん県おおいたおもてなしトイレ推進本部

県内トイレの改修を推進し「おもてなし」向上を図る

・2014年12月開始。
・県内765か所のトイレを調査し、県内の和式・洋式等の設備や、きれい・汚い等トイレの状況を把握。特に汚い要因について分析。県有施設のトイレの改修（市町村へは補助）を行い、きれいで快適なトイレを増やす取組を推進。
・トイレ利用者への意識や清掃管理者のモチベーション向上のため、「おもてなしトイレ認証制度」を導入し、要件をクリアしたトイレには認証シールを貼付、観光トイレマップで情報提供。

●活動地域：大分県内全域（大分県企画振興部観光・地域局観光・地域振興課が担当）

おもてなしトイレ認定事業

高知県

「おもてなし」に軸を置き
観光客の満足度アップを目指す

・2012年度開始。観光客の満足度向上のため、県民による「おもてなし」気運を高める取組の一環。
・観光客が利用するトイレにおいて、「おもてなし」に取り組んでいるトイレを公募・認定。認定条件は、清潔さ、明るさ、臭い、利用者へのおもてなし等の6条件。
・2014年度からは、特に優れた取組のおもてなしトイレの管理者を表彰することにより、更なるおもてなしトイレの取組への後押しをするとともに、県民全体の「おもてなし」意識の向上に寄与。

●活動地域：高知県内全域（高知県観光振興部おもてなし課が担当）

日本トイレ大賞

和歌山おもてなしトイレ大作戦

和歌山県

2年間で県内トイレを重点整備

・観光客が心地良く滞在でき、再訪したいと思える県を目標に、観光地の印象を左右する公衆トイレの改修を2013年4月に開始。
・整備対象は、観光地、道の駅、鉄道駅、神社仏閣、飲食店、宿泊施設、国体関連施設、県有施設のトイレ。
・男性小便器の洗浄操作のセンサー化、大便器は最低1基を洋式トイレ・温水洗浄便座にするといった整備基準を設け、2013～14年の2か年で626か所を改修。整備主体ごとに、補助、融資等も行った。洋式（温水洗浄便座有）率は3%⇒62%、小便器自動洗浄率は35%⇒100%という成果に。
・県職員による公衆トイレの見回り等、維持管理の向上にも努める。
・県ホームページにはトイレマップも掲載。

●活動地域：和歌山県内全域（和歌山県商工観光労働部観光局観光交流課が担当）

●改修前　●改修後

信州まごころトイレプロジェクト

長野県

きれいなトイレの維持に注力

・トイレがきれいかどうかで観光地の印象は大きく変わるとの考えで、2013年開始。
・観光地の公衆トイレを外国人、女性、高齢者、子供等全ての観光客が快適に利用できるよう、①トイレ改修・改築・新設への補助、②「信州まごころトイレ」の認定・発信、③トイレ美化清掃研修会の継続実施、の3事業を実施。
・基準をクリアしたものを「信州まごころトイレ」として認定し、専用ホームページで情報発信するとともに、抜き打ちチェック、2年更新制により、高いレベルを維持。
・きれいなトイレを維持するため、清掃研修会を清掃事業者向け・地域住民向けに分けて実施し、知事自ら参加。

●活動地域：長野県内全域（長野県観光部観光誘客課が担当）

アートを活かしたまちづくり「おおいたトイレンナーレ」事業

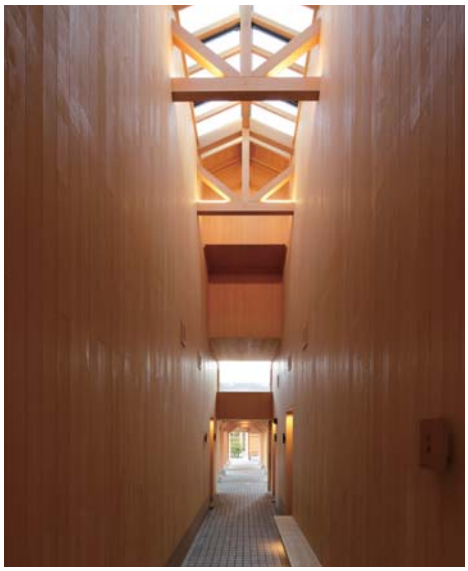
おおいたトイレンナーレ実行委員会、大分市

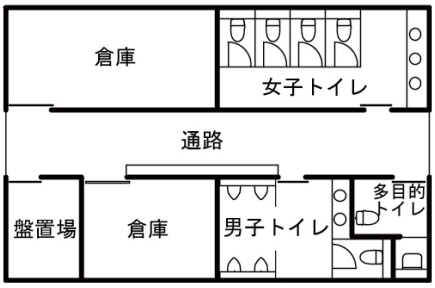
トイレ空間をアートの力で開放

・おおいたトイレンナーレは、大分市の中心市街地のトイレを舞台にした芸術祭で、2013年度より、商業ビル、店舗、公園等のトイレに現代アート作品を制作し、2015年7～9月に「おおいたトイレンナーレ2015」を開催。
・トイレンナーレはトイレとトリエンナーレ（3年ごとのアートフェスティバル）を組み合わせた造語で、全国、海外からも注目される観光イベントに。
・会期中は、トイレのアート作品を見ながら街の中を回遊。他にも地域の歴史や文化に触れる講座や、アーティストと市民がビルの屋上でお祭りを行うなど、トイレから始まり地域の活性化へとつながる取組に。

●活動地域：大分県大分市内（おおいたトイレンナーレ実行委員会事務局（大分市商工労政課）が担当）

日本トイレ大賞





草津温泉 湯路（とうじ）広場

群馬県草津町

間接照明と陽の光を上手に活用

・付加価値の高いまちづくりを目的に、2010年に「湯源湯路街」基本構想を策定し、湯畑広場の再整備に着手。無計画に整備するのではなく、まず地域住民と話合いや勉強会を行い、まちづくりのルールを地域の青年部が中心となり策定。ルールに沿い、余分な看板は一切付けず、ランドマークとなるよう建物を配置。
・照明は全て間接照明で、日中は天井から日光が入る開放感。
・緊急時の対応として緊急通報ボタンを設置。また、通路は路地にも抜けられるようにするとともに、防犯カメラも設置。大便器は全て温水洗浄便座。こまめに清掃、維持管理に努めている。

●施設所在地：群馬県吾妻郡草津町 草津温泉にある湯畑の湯路広場 ●設計：（株）K計画事務所

日本トイレ大賞

城見橋公園トイレ（城まちステーション）

岡山県高梁市

自然光を多く取り入れた明るいトイレ空間

・2013年度に市内公共トイレ135件の全数現地調査を実施し、観光客型、コミュニティ型、仮設型、教育施設型、公共施設付属型の5タイプに分類し、優先順位付けを行った上で、整備方針を策定。
・見直しの第一弾として、2014年度に観光客型で優先度が高いとされた城見橋公園トイレを整備。
・トイレ内、待合スペースとも死角が少なく、見通しが良く、自然光を多く取り入れた明るい空間に。
・維持管理を行う観光協会と協力し、休憩・待合・物販等で利用できるフリースペースを設置。備中松山城に向かう利用者の公園への滞留が増加。

●施設所在地：岡山県高梁市城見橋公園内　●設計監修：出口敦東京大学大学院教授　●設計：（株）田中大朗建築都市設計事務所

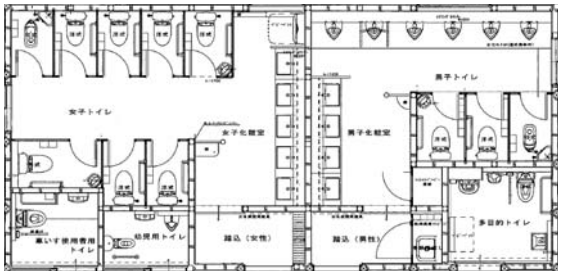
御安心処公衆トイレ

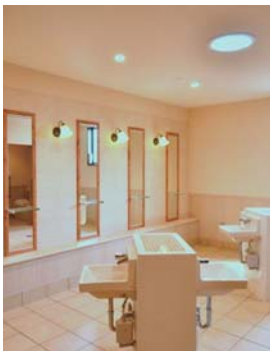
長野県長野市

善光寺御開帳に合わせ改築

・7年ごとの善光寺御開帳などでの利用者急増に対応できるよう、特に女性用トイレの数を増やし、着物用に姿見も設置。
・多機能トイレにオストメイト（P.16）対応設備を設置。
・多機能トイレ以外に、子供用トイレと車椅子対応トイレを設置し、多機能トイレへの利用集中が減り、身体障害者も安心して使用可能に。設計に当たっては、障害者団体に意見を聴取。
・女性用トイレには全て擬音装置を設置。

●施設所在地：長野県長野市　善光寺山門（三門）東　●設計：（株）中村建築研究所





伊賀の里モクモク手づくりファーム

株式会社伊賀の里モクモク手づくりファーム

ファームの雰囲気に合わせ温かみのあるデザインに

・利用者からの清潔さを求める声や、狭いという声など、安心して使用できるトイレの設置要望があり、2013年、駐車場及び施設内の授乳室に隣接して多機能トイレを新設。
・ファームの雰囲気に合わせた温かみのあるデザインに。トイレ案内サイン等はスタッフが手作りし、統一。
・ファミリー層が多いため、子供連れ・女性に配慮。具体的には、男女トイレともに子供用トイレ、おむつ交換台を、女性トイレには独立したパウダーコーナー等を設置。
・一般トイレ内にもオストメイト（P.16）対応設備を導入。

●施設所在地：三重県伊賀市西湯舟の農業公園内　●設計：一級建築士事務所岬設計

環境配慮

明治の森高尾国定公園
大見晴園地公衆トイレ
（おおみはらしえんち）

東京都

男女のトイレ数変更等により混雑を解消

・年間300万人以上が訪れる明治の森高尾国定公園内にあり、新緑・紅葉期は1時間以上の行列が常態化。浄化槽の容量超過により、汚物の噴出しが発生したため、大改修。
・改修のコンセプトは、行列解消と、臭い・狭い・暗いトイレから快適なトイレへ。
・便器数を男性用3：女性用7に。一つを除き全て洋式化し、全ての個室に手すりを設置。また、個室を広くし、荷物着脱、介助、着替え等を可能に。
・下水道未整備区域だが水洗化を実現。排水管を下水道本管まで敷設。ただし、管径が細いため、排せつ物は汚物槽で撹拌して流動性を高めた上で流下。

●施設所在地：東京都八王子市高尾町 明治の森高尾国定公園内の高尾山山頂

日本トイレ大賞

山岳トイレの環境改善に向けた情報発信と登山者への普及啓発

山のトイレを考える会

啓発の一環として「山のトイレデー」を毎年開催

・し尿の散乱や環境汚染が懸念されていた北海道の山岳地帯において、トイレの現状を把握し、関係機関と連携して、登山者への情報提供と普及啓発を実施。2000年開始。
・山岳地での排せつを減らすため、トイレの場所の情報を収集し、ホームページで情報提供するとともにトイレマップを作成・配布。
・登山者自身に気付いてもらうよう、会員が啓発資料を登山者に直接配布する「山のトイレデー」を毎年開催。
・地元山岳会や行政とも協力し、清掃・汲取りに協力。

●活動地域：北海道（主として山岳地）

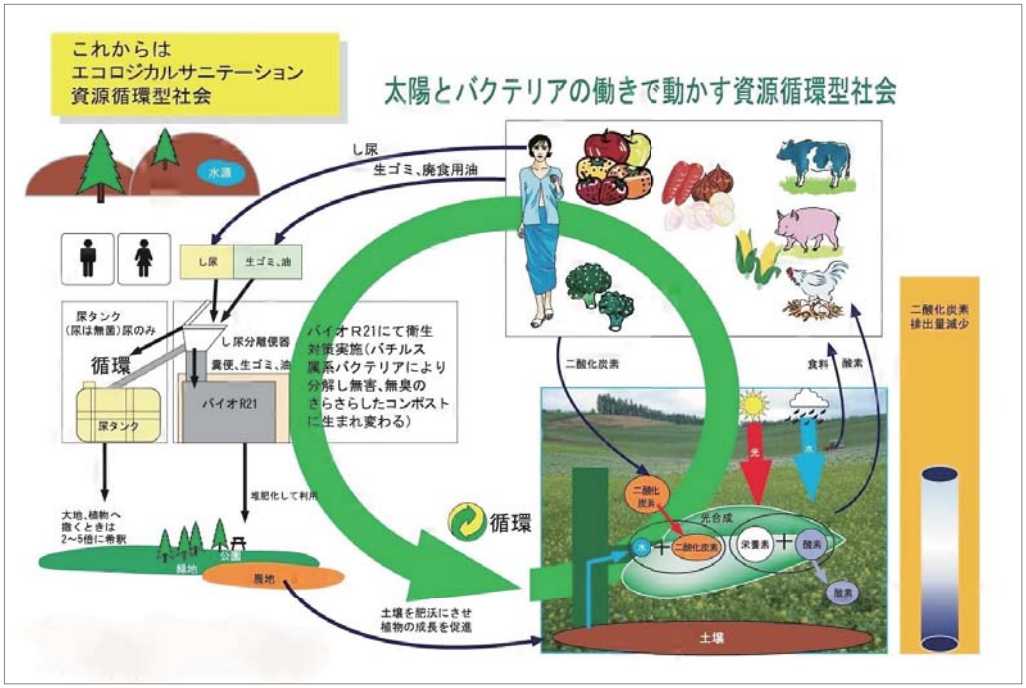
日本トイレ大賞

観光地・公園・災害避難所・災害対策仕様バイオトイレ

大央電設工業株式会社

大地の力を処理槽に再現

・観光地・公園・災害避難所向けバイオトイレ。
・特徴は、①有機物（便・トイレットペーパー）を微生物処理、②尿を分離し、尿中に含まれる栄養素を植物に還元可能。
・微生物分解の条件は、温度・酵素・水のバランス。セパレート便器、重量センサーシステム、し尿分離システム、ハイブリッド蓄電システム、雨水手洗い装置の開発により、ライフラインがなくても微生物分解能力を維持し、これにより、安全かつ衛生的に大量の使用が可能に。また、し尿を資源としてリサイクル可能。



●携帯トイレブース

剣山（つるぎさん）山頂「あわエコトイレ」

徳島県

最新のバイオ技術とトイレ技術を融合

・女性や子供、高齢者など誰もが安心して登山できる環境づくりと剣山のイメージアップにつなげるために、山頂に新しいトイレを整備。以前のトイレは、老朽化が著しく、臭いやハエの大量発生など衛生状態が悪化。
・最新のバイオ技術（土壌処理・カキ殻処理）とトイレ技術で、水の再生循環と節水が可能となり、水源のない山頂での水洗トイレを実現。
・太陽光発電、蓄電池、センサー式LED照明を導入。
・また、携帯トイレブースを設け、登山におけるトイレマナーを始めとする環境意識を啓発。

●施設所在地：徳島県那賀郡那賀町岩倉（剣山山頂）

携帯トイレの開発

株式会社総合サービス

袋を広げただけで使用可能のお手軽さ

・山岳において、安心して使えるトイレ環境の整備を推進。
・携帯トイレを普及することにより、土壌汚染等での山岳地源水質問題の対策を促す。
・環境省が1999年から推進している山岳トイレの整備について、携帯トイレの普及啓発と対策に参加。
・袋と凝固シート接着一体型のため、広げるだけで使用可。また、袋が緑色なので、使用後の中身が見えにくい構造。
・パッケージに地域の情報を掲載したご当地の携帯トイレを採用してもらうことにより、山々や公園、自然、風土などの様々な魅力を伝え、環境保全への普及活動につなげることが可能。
・山岳用・災害用合わせて約18年で累計150万回分供給、約150か所（自治体、山岳団体等）で供給。

福岡市再生水利用下水道事業

（下水処理水のトイレ洗浄用水利用）

福岡県福岡市

再生水で新たな水循環に挑戦

・1980年、日本で初めて再生水を供給開始（1978年の大渇水が契機）。
・水資源に恵まれていないため、節水型都市づくり※1の一環として、再生水利用下水道事業※2を推進。

※1 ①節水型機器の普及（節水便器の研究等）、②水道水の効率的供給（流量調整・水圧コントロール）、③節水意識の高揚、④大型建築物等のトイレ洗浄水としての雑用水道の普及。
※2 都市の中の安定した下水処理水を再処理し、主にトイレの洗浄用水として再利用。

・福岡市の節水型都市づくり及び循環型社会の構築に貢献。
・海外からも大いに注目を集め、多くの視察者が来訪（2014年度海外視察 全9件25か国 107名、国内視察 全8件）。

●活動地域：福岡市（福岡市道路下水道局下水道施設部施設管理課が担当） ●設備：福岡市中部再生処理施設、東部再生処理施設

清掃・維持管理等

観光トイレ
清掃ボランティア活動

富良野市立布礼別小学校

1988年から続くボランティア活動

・毎年5～10月に、学校近くの公衆トイレの清掃を児童・生徒・教員で継続し28年目。
・中学校閉校後は、小学校3年生から6年生を中心に、時には卒業生の協力も得ながら親子二代にわたって活動するケースもあるなど、地域ぐるみの活動に拡大。
・年度初めに「観光トイレはじまり集会」を実施。目標・指針を設定、活動意義を確認し、活動意欲を向上。秋に「観光トイレふりかえり集会」で次年度への意欲付け。
・児童一人ひとりが地域への貢献を感じ、郷土愛醸成に。
・トイレの掲示板には、学校の紹介や街のPRも掲示。
・国内外の観光客等との心の触れ合い、感謝の声、感動の声が広がり、富良野市の観光促進の一助に。

●対象施設：北海道富良野市の道道東山 富良野停車場線（253号）に面した布礼別小学校近くの公衆トイレ

日本トイレ大賞

日々の成果を記したトイレ清掃日記

地域の公衆トイレ清掃

和歌山市和歌浦片男波地区 8の字会

2001年から1日も休むことなく継続

・2001年4月に完成した公園の公衆トイレの清掃活動を、15年にわたり1日も休むことなく継続。トイレ設置時に、維持・管理を地区に頼まれ、住民の中からトイレ掃除の会員を募集したところ約20名の応募があり、現在に至る。
・傍らにある公園の花壇に植栽を行い、そこで咲く花を日々トイレに飾っている。
・トイレ清掃日記を書き、1年間の記録を比較。
・利用される方から、きれいさにお礼の手紙も。
・8の字会のモットーは、「美は美を守り美をつくる」であるが、地域にある公共施設がきれいに、かつ大切にされているところは、「安心・安全」のバロメーター。

●対象施設：和歌山県和歌山市和歌浦片男波地区の公園内トイレ

2013年9月、「和歌山おもてなしトイレ（P.22）」に認定

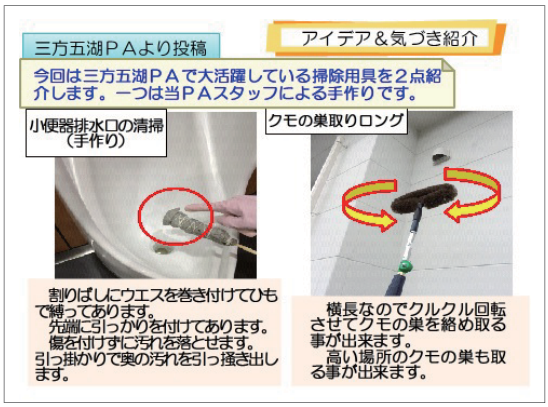
清掃スタッフ手作りの情報交換紙の発行「エリ子が歩くSA・PA」

中日本ハイウェイ・メンテナンス北陸株式会社

清掃技術の向上や清掃知識を深化

・「エリ子が歩くSA・PA」は、高速道路休憩施設の清掃スタッフそれぞれの悩みや課題の共有・解決、必要なスキル向上、連携強化等を目的とした、スタッフ相互、管理者との双方向の情報交換紙。
・発行に清掃スタッフ自らが参加することで、モチベーションアップ、清掃技術の向上や清掃知識を深化。
・発行ごとに手渡しした清掃スタッフからの意見を次号に活用。意見数は第20号発行時点で累計約230件に到達。
・季節に応じた装飾等の配慮、細部まできれいにする気概、グループで自発的に工夫し評価するなど活動が活発化。
・利用客からの褒め言葉が増加、外部「トイレ診断士」による評価点が向上。

●対象施設：北陸自動車道、東海北陸自動車道、舞鶴若狭自動車道における37か所の休憩施設　●備考：「エリ子」の由来は、SA・PAを「エリア」と呼んでいることから



「エリ子が歩くSA・PA」16号紙面より

花や手書きのプレートを手洗い場等に設置

レンタルサービスシステムを通した一般トイレにおける環境衛生の改善「カルミック・メンテナンス・システム」

日本カルミック株式会社

メンテナンス込みのサービスで常にハイクオリティを維持

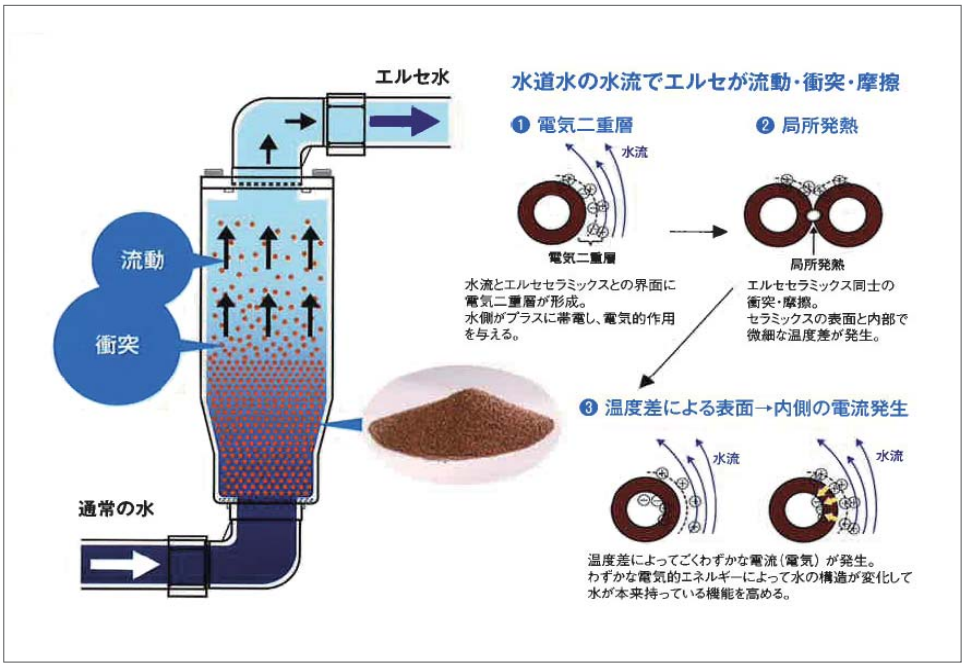
・便器に設置することで臭気・詰まり・細菌の繁殖を予防する製品を始め、主にトイレ内での衛生管理器具のレンタルサービスを提供。独自の製品の開発と、設置後のメンテナンスまで自社で行い、効果の維持を可能に。
・1993年からは高機能生理用ボックス「サニッコ」サービスを展開し、専任サービススタッフによる革新的なメンテナンスシステムを確立。
・駅、学校、病院、オフィス等に多数導入済。
・全ての製品はメンテナンス・スタッフが定期点検。また、環境面ではリデュース・リユース・リサイクルの3Rを掲げ、節水効果や製品の再使用、リサイクルに注力。

トイレ給排水管の清掃・尿石の除去・消臭

三保電機株式会社

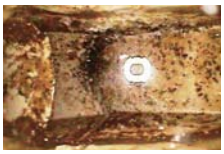
水を流すだけで電気エネルギーにより清掃

・便器の目皿や排水管内部には、長期間の使用で付着した尿石がバクテリアの住みかとなり、夏場には教室にも届く異臭発生の原因。付着した尿石は、化学薬品等での除去も困難。
・水中でセラミックスの衝突や摩擦により微弱な電流を発生。この電気的エネルギーによって構造を変化させた水で、水質を変えず、排水管内部に付着したスケールや尿石の剥離や消臭が可能。日本水道協会認定品。
・1,200℃で焼成したセラミックは、ダイヤを硬度10として真珠と同じ6.8で、半恒久的に使用可能。
・環境に優しい水処理装置は、薬剤の使用が困難な、小学校のトイレや給排水管保全でも、尿石剥離等の効果がある。新幹線の車両、学校・駅舎トイレ、高速のPAトイレにも多くの採用実績あり導入済み（国交省認定エルセ工法KT140126A）



●トイレ尿石剥離　観察テスト
小便器トラップ部分の観察データ

2013年12月 エルセ設置前


2014年3月 設置後1回目

2014年12月 設置後4回目

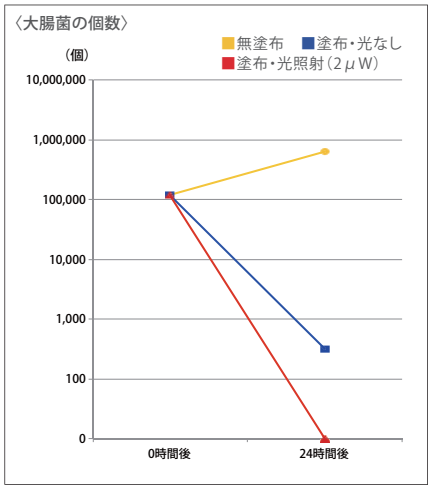
壁面の尿石が軟化し剥離しかけている

尿石の剥離が進み白い部分の面積拡大

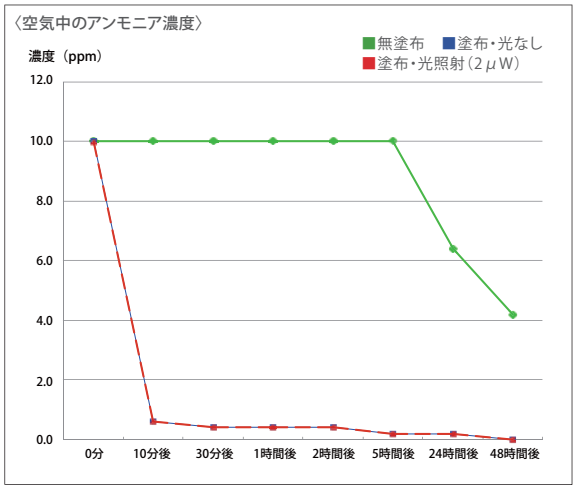
●塗装前

●塗装後

●微光光触媒塗料の塗布実験



■ポリプロピレンの板に塗料を塗布後、10万個の大腸菌を付着させ、無塗布のものと比較。■微光でも大腸菌が死滅。さらに、光のない状況でも、銀の作用で除菌効果を発揮。



■ポリプロピレンの板に塗料を塗布したものを、アンモニアを満たした箱に入れ、無塗布のものと比較。■塗料が臭いの原因を吸着・分解し、素早く消臭。

微光光触媒塗料によるトイレの安全で清潔な空間の創出

笹野電線株式会社

わずかな光に反応して安全で快適に

・吸着力があり、小さな穴の多いアパタイト（リン酸カルシウム系セラミックス）被覆酸化チタンに銀ナノ粒子を付加した光触媒塗料。室内の微光環境下（放射照度2μW/cm²）でも活性し、除菌・消臭効果を発揮。
・銀ナノ粒子付加により、光量の全くない環境下でも抗菌性能を発揮し、細菌・ウイルス等が死滅。
・トイレの内装・天井等に塗ることで、トイレ内の細菌・ウイルスや、アンモニア等悪臭の除去が同時に可能。
・低コストで簡単な塗装方法。
・京都市ベンチャー企業目利き委員会から最高評価Aランク認定を獲得。
・中国、ASEAN諸国の百貨店等、国内の高齢者介護施設・食品工場、公園・観光地・集合施設等のトイレにて実証試験を実施（商品名「ルミチタンNAG」）。

啓発・情報

nepiaうんち教室

王子ネピア株式会社

うんちを知らない、うんちに行けない、小学生のために

・子供たちに「うんちをすることは恥ずかしいことではない」「いいうんちをすることの大切さ」を伝える排せつ教育。
・「うんち王子」となった講師がプログラムをリードするなど、子供たちに「楽しく正しく」学んでもらうことを意識した、興味を持って実践してもらえるプログラム。
・小学校によってトイレ周りの課題は様々であるため、事前にヒアリングをした上でプログラムを調整。
・教員が独自にうんち教室を展開できるよう、研修会も実施。

●活動地域：全国の小学校
●備考：特定非営利活動法人　日本トイレ研究所と連携して実施

日本トイレ大賞

オリジナル出前授業「日本のトイレが世界を救う!」

株式会社LIXIL

安全で衛生的なトイレの大切さを学ぶ授業

・社員自らが小学校に出向き、トイレの歴史や世界のトイレ事情、企業の取組について授業。
・トイレがなかった時代の生活や、排せつ物を資源循環させる江戸時代の優れたシステム、世界で起きている深刻な衛生問題など、子供たちが普段あまり触れることのない事実を知ることで、自分たちの暮らしを振り返り、考え、行動する機会を創出。
・地域の営業担当者が講師を務めることで、地域とのパートナーシップを育み、継続的な社会貢献を目指す。社員自身の知識が深まることはもちろん、人間的な成長を促す機会にも。

トイレカーペンターズ

特定非営利活動法人 日本トイレ研究所

アイディアと楽しむ気持ちでトイレを変える

・災害時には避難所となる小学校などのトイレについて、児童・保護者・教員・地元有志等とともに環境改善。
・プロフェッショナルな工事をするのではなく、ほんのちょっとの手間と工夫で気持ち良くて楽しいトイレができるということを、実践して伝えることが活動の目的。
・本活動は、トイレの環境改善を自分たちで行うことでコストダウンするとともに、自主的活動への意識の広がりと教育的効果を期待。
・参加者を広く募ることで、災害時にも顔の見える近隣関係を築く一助に。
・1回限りのイベントとせず、地元の人が見守り、手を入れていけるよう、道具を渡すなど引き継ぎを密に実施。

日本のトイレの30年にわたる改革運動

公共トイレ改革への取組とよりよいトイレの環境づくり

日本トイレ協会

トイレに光を当てた先駆け

・それまで日の当たらなかった公衆トイレをまちづくりの視点から見直し、「トイレ革命」を目指して、多様なメンバーが集まり、1985年に日本トイレ協会を設立。
・全国トイレシンポジウムを30回にわたり開催。
・公衆トイレの良い事例の普及を目的とした「グッドトイレ選奨」を選定。
・災害用トイレ等の、トイレ産業としては規模の小さな事業分野を応援するため、展示会等を通じて情報発信。
・ホームページ等を通じたトイレに関する情報発信や、トイレに関する書籍を刊行。

ベビ★マ 授乳室・おむつ替え施設検索アプリ

Trim株式会社

つながる助け合いの輪

・無料で誰でもどこでも利用できる、授乳室・おむつ替え施設検索のスマートフォンアプリ。
・利用者による情報登録が可能であり、実際のママ・パパの助け合いによりアプリが進化。
・蓄積された情報により、一世代で終わりではなく、次の世代へと引き継ぎ更なる広がりに。
・授乳室・おむつ替え施設がすぐに見つかることによって、親が積極的に外出でき、地域の活性化にもつながることを期待。

●備考：「ベビ★マ」の運営会社は、2015年12月1日より（株）エストコーポレーションからTrim（株）に変更

日本トイレ大賞

「オストメイトなび」プロジェクト

任意団体エムアクト

オストメイト（人工肛門・膀胱保有者）が抱える悩みや課題に対応

・地図機能が搭載されている、オストメイト（P.16）にフォーカスしたアプリとしては世界初となるスマートフォンアプリ「オストメイトなび」を開発し、オストメイト対応トイレの所在地や設備等の情報を発信。2020年までに英語対応予定。
・地方公共団体や関係団体との間で、オストメイト対応トイレの情報収集・普及活動における協働体制を構築。
・アプリは無償提供。GPS機能を利用し、誰もが簡単にトイレ情報を提供できる仕組み。

◎オストメイトなび の機能

福　祉

身近な ユニバーサルデザイン（トイレ洋式化）推進事業

佐賀県

洋式トイレを増やし、街のバリアフリー化も

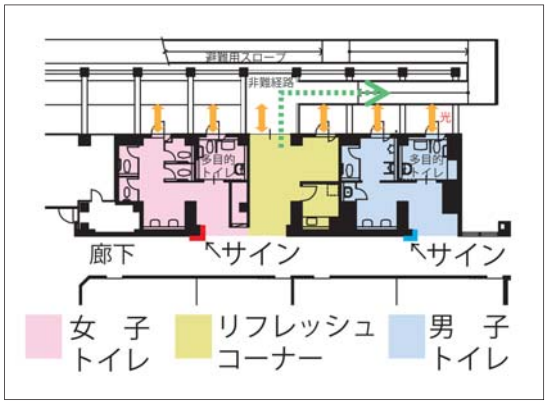
・高齢化や外国人観光客増加の中、誰もが安心して外出できる環境づくりの一環として、来客用トイレがある民間施設や公共施設に対し、和式から洋式への便器取換え、ブース改修・増設などの費用の一部を補助。温水洗浄便座やベビーチェア設置も対象。
・手すり設置やスペース改修、段差解消のための費用等も補助対象工事費として認可。街のバリアフリー化に貢献。
・管理者に対し、定期的な清掃等、適切な管理を依頼。
・多くの補助申請者、トイレ利用者から喜びの声あり。
・2013年11月の事業開始から2015年3月末までの実績は、970施設（1,356か所）。
・補助対象施設は、自治公民館、社会福祉施設、民間施設（飲食店、物販施設、宿泊施設等）、市町施設。

●対象地域：佐賀県（佐賀県健康福祉本部地域福祉課が担当）

●改修前

●改修後

【喜びの声　一例】 ●「和式トイレだったからと他の店に行かれていたお得意様が、洋式になったという噂を聞いて来店してくれた」（飲食店）●「高齢の方が集まる会合が多く、以前から洋式トイレ設置の要望が住民から上がっていたものの、資金面から設置が難しく先送りしていたが、今回の補助を受け設置することができた」（自治公民館）●「和式だと子供が使えなくて買い物も慌てて帰らないといけなかったが、ゆっくり買い物ができるようになってありがたい」（物販施設）●「和式の時は、子供が使い方に慣れておらず汚すこともよくあったが、洋式になり汚すこともなくなった」（学習塾）●「海外のお客様も多く、以前より要望があったが、今回補助金により洋式化することができて大変助かった」（ホテル）●「外国の観光客が多く訪れるようになっており、トイレを洋式化したいと思っていたので、この補助制度が始まってとても助かった」（観光施設）●「洋式トイレにしたことをきっかけに、トイレ以外の部分でも多くの方が利用しやすくなるような取組を行いたい」（病院）●「腰の悪い方や妊婦さん、高齢の方から、今まではトイレを我慢することもあったので洋式トイレになってとてもよかったと言われている」（飲食店、物販施設など多くの施設）



●施設所在地：岡山県岡山市北区南方
●設計：（株）竹中工務店一級建築士事務所

岡山県総合福祉・ボランティア・NPO会館 “きらめきプラザ”

岡山県

障害者に寄り添う ユニバーサルデザイン

・旧国立岡山病院の建物を、耐震補強した上で総合福祉施設としてリニューアルし活用。
・障害者が事前検証に参加し、細部の使い勝手を検証するとともに、あえて自動水洗、自動扉を選択しないなど、自立を促し、使用時にリハビリとなるような障害者に寄り添うユニバーサルデザインを導入。過剰な干渉にならないよう配慮し、いつでもスタッフが支援。
・過剰反応しないセンサー、操作が単純な大きなボタン式を導入、色覚障害者も認識しやすい色彩・サインに配慮するとともに、男女別々の多機能トイレや幼児用便座も備えたトイレを設置。また、全てのトイレに窓を設置。
・利用者は年間約20万人、職員約350人勤務。

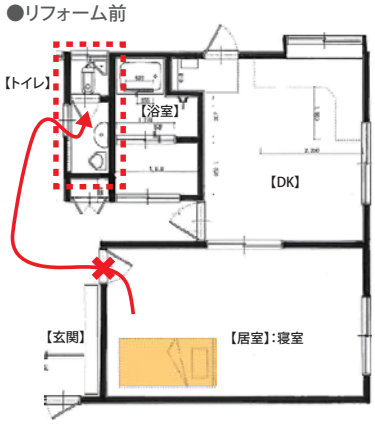
住み慣れた我が家で、自分の力でトイレに行こう活動

パナソニック株式会社

高齢者の自立につながるトイレリフォーム

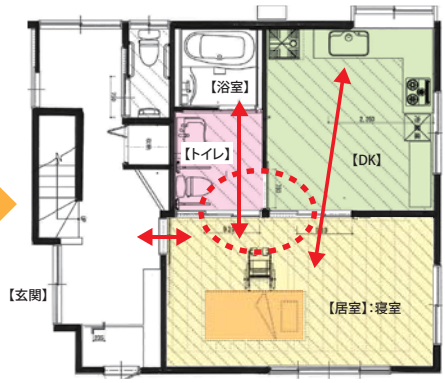
・高齢者や要介護者の「住み慣れた自宅で一日でも長く住み続けたい」との要望に対し、それぞれの身体状況や症状に合わせ、トイレリフォームを実施。
・独自のデジタルシミュレーション技術を活用した商材とリフォームプラン等の組合わせによる自宅内の福祉トイレリフォームの実施と、ユニバーサルデザインの観点から開発したトイレ及びトイレ空間を提供。動線の確保や、「アームレスト付便器」などにより設計。
・介護する側の肉体的負担の軽減、介護される側の精神的苦痛の軽減につなげる。自立支援でリフォーム後に要介護度が低減した事例も。
・全国にあるパナソニックエイジフリー介護チェーン店で、住宅・介護施設用のトイレや在宅介護住宅リフォームを扱うとともに、介護付き有料老人ホーム、サービス付き高齢者住宅、在宅介護サービス等の設立・運営も実施。
・福祉リフォーム実績は、2000年～現在までに約30万件。

●リフォーム前



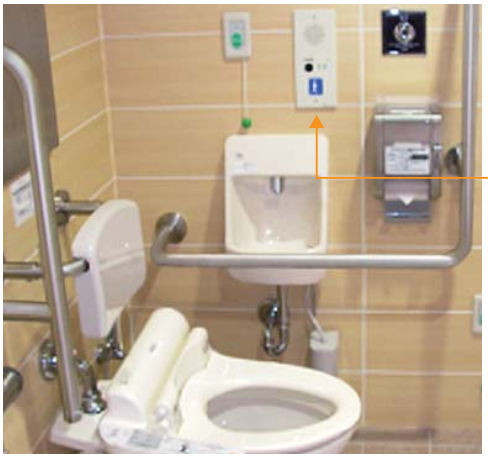
〈問題点〉
・和式→洋式にしても間口が狭くトイレに車椅子では入れない。

●リフォーム後



〈トイレ・洗面所と居室をつなげた改修〉
・寝室からトイレ洗面、浴室に安全に行ける。
・台所側にも開口（引戸）回遊できる。
・介助もしやすく、台所が近いため家事も楽に。

リフォームには
アームレスト付便器を使用



トイレ内音声案内装置
「ポッチ-Pro」
人感センサーにより、主に以下の音声案内が流れる。
①案内への注意喚起のための擬音、②多機能トイレ内の音声であること、③鍵の位置、④扉の締め方、⑤便座の位置、⑥入口からの方向
さらに、押ボタンにより以下の音声案内が流れる。⑦温水洗浄操作盤の位置、⑧ペーパーの位置、⑨水洗操作方法 など

便房内音声案内装置
「ポッチA」
荷物掛けフックの位置、和洋式の向き、ペーパー位置、水洗操作方法に対応。
視覚障害者の参加するイベント等のトイレに仮設設置。

トイレ内音声案内装置の開発

レハ・ヴィジョン株式会社

音声装置で視覚障害者や高齢者も使いやすく

・視覚障害者が、様々な形状のトイレを混乱なく使うことができるよう案内する音声装置。2002年に多くの視覚障害者の個人や団体からの要望により、国内で初めて製品化。高齢者のボタン押し間違いの防止や、外国人への多言語案内にも対応。新製品は「ポッチUD-W」。
・視覚障害者が、横からの音で方向と距離感を掴むという特性に配慮した構造。案内ボタンを押すと聞き直し可能。
・石川県工業試験場、公益財団法人 石川県産業創出支援機構から公的支援を受けて製品化した産学官連携技術革新商品。社会福祉法人 日本盲人会連合推奨品に認定。
・地震・津波・火災が発生した際、セコムやJ-ALERT信号を受信し、設置されたトイレ内にて最適な行動を最優先で誘導可能（日本語→英語→中国語→韓国語の順番）。
・空港、駅、SA、観光地等、公共施設を中心に、全国に約1,000台のトイレ内音声案内装置が採用。

「暮らしの質」向上検討会の3つの提言

活動しやすくする工夫

女性の活躍を支える民間等の創意工夫を日本全国の取組へ

産前産後～子育て期、ポスママ期、介護、困難な状況など、女性のおかれたシチュエーションごとに活動しやすくする民間等の創意工夫ある事例を整理。事例集を発行し、創意工夫の広がりとさらなる発展を促す。

暮らしやすい空間づくり

「ジャパン・トイレ・チャレンジ」を実施する。

暮らしやすい空間へと転換する象徴として「トイレ」は欠かせない。清潔性、快適性、安全性の向上だけでなく、国際貢献、成長戦略・経済成長、防災、地方創生、ユニバーサルデザイン化の推進など、多方面で可能性を秘める。快適なトイレを増やすための取組「ジャパン・トイレ・チャレンジ」を実施。

支えあいのネットワーク

生活スタイル変革のための国民運動を。

問題・課題に直面した女性に向けて、必要な情報提供のワンストップ化を推進する。また、マタニティ・ハラスメント対策等の環境整備と合わせて、長時間労働抑制、多様な働き方の普及に向けて、国民の生活スタイル変革を呼びかける。

「暮らしの質」向上検討会の提言、リーフレット、女性を活動しやすくする民間の創意工夫の事例集は下記ホームページでご覧ください。

リーフレット

事例集

「暮らしの質」向上検討会について詳しく知りたい方は

暮らしの質向上検討会　検索

http://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kurashinoshitsu/

平成28年1月